

# 九州歴史資料館年報

平成26年度



九州歴史資料館



## はじめに

九州歴史資料館は、古くから中国大陸、朝鮮半島など対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにするべく、大宰府及び関連遺跡の調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を一般に展示、公開してまいりました。

平成 23 年度からは組織規則の改正に伴い、福岡県教育庁総務部文化財保護課で実施してきた埋蔵文化財の発掘調査業務を当館に移管し、発掘から報告書作成までの一連の作業を集中して行うことで、より効率的な業務の遂行を図っています。

この年報は、当館が平成 26 年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の第 9 次 5 ヶ年計画の 3 年次にあたり、政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区についての調査を行いました。また、東九州自動車道関係や県営ダム等の建設に関わる発掘調査も行いました。

展示については、常設展示のほか特別展示「福岡の神仏の世界—九州北部に華開いた信仰と造形—」及び企画展示やパネル展示、特集展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名誉館長講座」・「九歴ゼミ」・「夜のギャラリートーク」や各講演会等の開催、その他学習支援、出前講座及びボランティアを中心とした体験活動を展開しました。これらの事業により歴史資料館としての活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州・福岡の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、より一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに邁進いたします。今後とも皆様方のご支援をお願いしますとともに、当館をご利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々にご活用いただければ幸いに存じます。

平成 27 年 7 月

九州歴史資料館長

杉 光 誠

# 目 次

1 事業概要 .....	1
(1) 調査・研究 .....	1
(2) 展 示 .....	18
(3) 資料利用 .....	26
(4) 学習支援・博学連携 .....	32
(5) ボランティア .....	36
(6) 普及・活用事業 .....	39
(7) 広報活動 .....	51
(8) 実習・研修 .....	53
(9) 刊 行 物 .....	54
(10) 交流事業 .....	55
(11) 協議会等 .....	56
2 九州歴史資料館概要 .....	57
(1) 沿 革 .....	57
(2) 施設概要 .....	58
(3) 予 算 .....	58
(4) 組織・職員 .....	59
(5) 関係法規 .....	60
3 諸 統 計.....	66
(1) 入館者状況 .....	66
(2) 収蔵資料・図書 .....	66
4 日 誌 抄 .....	67

# 1 事業概要

## (1) 調査・研究

### 【学芸調査室学芸研究班】

#### ◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としているのは、仏像や仏画などのいわゆる仏教美術が主であり、時代としても古代から中世にかけてが主となっているが、その他の絵画や工芸品にまで目配りをするよう、そして時代としても近世以降も対象とするように心掛けている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。

#### ○主要寺社の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。そこで、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げ、そこに伝えられている造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を総体として捉え、さらにはそれを通して地域の特色を把握できればと考えて、主要寺社の調査を行ってきた。今後は加えて、ある特定の寺社のみならず、特定の地域の造形遺品について集中的に調査を行い、その地域の特色を浮かび上がらせる試みなども、行っていくことにしている。

26年度は、九州を代表する霊山の一つである、英彦山の国史跡指定へ向けた調査の一環としての、山内の美術工芸資料調査を継続した。25年度までに、英彦山修験道館や山伏文化財室のように、山内の文化財が集中して所在している場については、そこに所在する彫刻、絵画、工芸等の美術工芸資料についての調書作成と写真撮影等の調査は、概ね完了している。26年度については、主として高住神社と坊のいくつかについて調査を行った。

高住神社は、豊前坊という名でも呼びならわされている、英彦山山内における核たる存在の一つである。ここにおいては、天狗面や鼻高面、獅子などの彫刻を主たる対象として、調書作成と写真撮影とを行い、また歌仙絵をはじめとする絵馬の所在確認等を行っている。坊については、時間的制約から悉皆調査は不可能であるが、一典型を押さえておく必要はある。今回は、各種文化財がゆたかに伝えられていて、古文書分野、民俗分野の調査も入り、それらの成果と併せて総体を浮かび上がらせることができると判断された、松養坊において、美術工芸資料に関しても悉皆調査を行っている。

またその他、杉戸絵等については、建築分野にも資するものであると考えられるし、山内に現存するものも限られた件数であるようなので、これについては全て押さえておきたいと考えている。聖地としての英彦山にとどまらず、文化活動の拠点としての山のあり方も見える調査にしたいと考えている。

#### ○寺社及び個人所蔵作品の調査研究等

26年度は、特別展「福岡の神仏の世界—九州北部に華開いた信仰と造形—」（会期：平成26年10月10日～11月30日）に関連して、展覧会準備のために、福岡県内の寺社や個人宅において調査を行った。特別展については後に改めて述べるが、今回は国指定文化財と県指定文化財を中心に、未指定のものも重要なものを含め、いずれにせよ既知の、あるいは当館にて既に調査を行っていたものが、展示資料の主体となっていた。ただしそれらについても、詳細な写真資料にとどまらず調書についても、必ずしも

十分なものが存在しているとは限らないのが現実であって、これらについては再度精査を行っている。そのような中で、従来全く知られていなかったもので、新たに調査を行って展示に至ったものとし



英彦山神宮 鬼形部材

ては、福岡県豊前市の求菩提資料館の木造獅子像や、福岡県添田町の英彦山神宮の鬼形部材などの鎌倉時代の木造彫像、福岡県篠栗町の若杉霊峰会の南宋時代の石造香炉、御笠川から採集された、高麗時代の銅造如来形坐像と高麗時代のものかと思われる塑造仏手などがある。



求菩提資料館 木造獅子像

#### ○九州に偏在する中国系彫刻の調査研究

26年度から、九州に偏在している明時代以前の彫刻についての調査を始めている。これまで九州では、島嶼部を含めた九州西北部に多く遺る、朝鮮半島からもたらされた彫刻についての調査研究は進められてきたものの、奈良時代以降の日本の彫刻そのものへの影響を考える上では、より重視すべき中国の彫刻に関する研究は、必ずしも進んでいなかった。そのため、それを前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、このような調査に着手したものである。調査は木彫像にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国製石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、また中国製石造物である宋風獅子までを対象としている。

#### ○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないとは判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々について受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元的环境を整えることに協力し、整えば再び地元で保管するということを、理想として心掛けている。また近年では、文化財の収蔵庫が経年劣化して改築や修理を行う場合がままあり、その際の緊急避難を受け入れることもある。26年度については、福岡県久留米市の朝日寺の、県指定文化財である神子栄尊坐像をはじめとする仏像群、福岡県太宰府市の個人宅から確認された、平安時代前期に造像が遡る男神立像等について受け入れを行っている。前者については、安置堂宇の建て替えに伴い一時保管を行っているもので、後者については、詳細な位置づけを行うための調査と、万全な保管を期するために、当面の間当館にて保管することになったものである。



個人蔵 男神立像

## ◎考古基準資料調査

### ○県内山岳霊場遺跡・中近世城館遺跡の調査

26年度は、脊振山系の山岳霊場遺跡のうち、九千部山～脊振山～三瀬峠～雷山～浮岳の稜線上、および山麓部の現地調査を行った。この成果については、27年度に報告する予定である。

また、中近世城館遺跡の調査としては、大分県中津市の長岩城および中津市と上毛町の境にある雁股山城の現地調査を行った。この成果については、『九州歴史資料館研究論集』40に報告した。

### ○重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土土器保存修理事業

当館では、文化庁が所蔵する重要文化財栗田遺跡祭祀遺構出土土器を長期保管しているが、発掘調査報告書の整理・報告時に簡易的な復元作業がなされただけであったために、長期の経年変化により、修復が必要な状況にあった。そのため、文化庁では、23年度より約5か年の計画により、当該資料の保存修理作業を行うこととなった。

文化庁は、事業を行うにあたり、協力者会議（委員：西谷正、武末純一、重藤輝行）を発足して、23年度に会議を行い、その後保存修理業者の公募・選定を行った。その結果、（財）元興寺文化財研究所に修理を委託することとなった。

事業の4か年目に当たる26年度は5号甕棺・6号甕棺（下）・12号甕棺（上）・39号甕棺（上・下）の計5点が修理の対象となり、当該資料は元興寺文化財研究所にて保存修理が行われた。保存修理の工程は、①保存修理前の調査・記録、②解体、③クリーニング・材質強化（アクリル樹脂含浸）、④接合・組立、⑤復元充填（エポキシ樹脂による）、⑥仕上げ・補彩、⑦保存修理後の調査・記録、の順に進められ、終了後当館に搬入、収蔵された。27年度も継続して実施する。

### ○福岡県中近世城館遺跡詳細分布調査

福岡県には、中世から近世初頭、特に戦国時代には大名や在地領主によって、各地に1,000か所を超える多くの城館が築かれた。これらの城館については各種開発事業の対象となる事例も増加しており、事業の必要性からやむを得ず記録保存の対象となったりする事例が増加している。

こうした現状に対し、県教育庁総務部文化財保護課が、文化庁の国庫補助事業において24年度より県内に所在するすべての中近世城館遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を約5か年かけて行うこととなった。当該事業の調査担当として、学芸研究班学芸員2名が調査にあっている。24～26年度にかけては筑前地域を対象として、既存資料の把握・整理さらに追加調査を行い、26年度末に、筑前北部地域を対象とした『福岡県の中近世城館跡Ⅱ―筑前地域編2―』（福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書2）を県教育委員会より刊行した。27年度以降も継続して調査を進める予定である。

### ○考古資料の受け入れ

個人の方から田川市鎮西公園の出土品一括（古墳時代須恵器・土師器・鉄製品）について、当館への寄贈の申し出があったため、9月26日に受け入れを行い、当館の考古資料となった。また、同様に別の個人の方から須恵器3点についても寄贈の申し出があったため、3月24日に受け入れを行い、当館の考古資料となった。これらの資料は、今後整理が終了次第、公開・活用をはかりたい。

## ◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにするべく、

調査研究活動を行っている。

#### ○出土文字資料の調査研究

出土文字資料の調査研究としては、25年度まで行っていた大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土の木簡調査の成果として『大宰府政庁周辺官衙跡－不丁地区』が完結した。それを記念して、平成27年2月10日（火）から4月5日（日）までの会期で特集展示「大宰府の役所－大宰府政庁周辺官衙不丁地区成果展－」を開催し、出土の木簡・墨書土器・文房具などを展示した。大宰府史跡出土の木簡については、今後も釈文の再検討を継続的にを行い、木簡の保存処理や正報告の発刊に備える予定である。



延永ヤヨミ園遺跡出土「津」墨書土器

また、東九州自動車の整備にともなう発掘調査で出土した行橋市の延永ヤヨミ園遺跡出土木簡や墨書土器についても釈文の再検討や内容の検討を行い、報告書『延永ヤヨミ園遺跡－Ⅲ区Ⅱ－』『延永ヤヨミ園遺跡－Ⅳ区Ⅱ－』で成果をまとめている。なかでも同遺跡出土の墨書土器に「津」と記されたものがあったことから、延永ヤヨミ園遺跡一帯について『類聚三代格』にみられる草野津の可能性が高まった。

ほかに筑紫野市の大宰府条坊跡出土の墨書土器をはじめとして、県内市町村および近県の出土文字資料の調査依頼があり、赤外線スキャナーを用いて文字の解読を行った。

#### ○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。これらの成果として、野田大塊(卯太郎)文書について、第24回企画展「政治家 野田卯太郎から見る日本の近代」において紹介した。本展の開催にあたっては、みやま市保管の野田文書についても展示を行った。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。

#### ○県内所在資料の調査研究

24年度から、添田町による英彦山の国史跡指定に向けた文化財総合調査の一環として、英彦山ゆかりの古文書調査を開始している。古来、修験道の霊場・信仰の聖地として多くの崇敬を集め、宗教・地域権力として多彩な活動を繰り広げた英彦山は、時の政権や朝廷、九州の諸勢力とも密接な関係を持ち、その信仰圏は九州の全域に広がっていた。この九州を代表する霊山・英彦山について、その活動の中核である神社や旧座主家に残る古文書資料から調査研究し、且つその保存・活用の基盤を整えるものである。25年度は、英彦山の旧座主家文書（高千穂（上）文書）と英彦山神社文書の調査を中心に実施し、26年度は、文書目録の内容の確認作業と補足調査を行った。さらに山内に残る松養坊などの坊家等の資料についてもその概要と保存状態の把握を行った。それらの一連の成果については、27年度に添田町が発刊予定の英彦山の総合調査報告書で報告する予定である。

同じく24年度から、福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査として、関係文献資料調査を実施している。こちらは既刊行史料の集成が主な作業内容になるが、県下全域における中世～近世初頭の史料を対象として、網羅的に実施するものであり、大きな意義を持つ調査である。26年度は主として筑前国北部（鞍手郡・遠賀郡・宗像郡・糟屋郡・席田郡・那珂郡・早良郡・怡土郡・志摩郡）を対象に行い、その成果

は福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書2『福岡県の中近世城館跡Ⅱ－筑前地域編2－』に一覧として収載している。同時並行で豊前地域の関係文献資料調査にも着手し、目録を作成中である。

### 【学芸調査室調査研究班】

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。26年度は、大宰府史跡の調査として発掘調査4件を行い、正式報告書2冊を刊行した。また、大宰府史跡に関連する遺跡の調査として行橋市教育委員会による福原長者原遺跡の確認調査の支援を行った。

#### ◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

26年度は、大宰府史跡発掘調査第9次5ヶ年計画の3年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を実施した。また、大宰府政庁前面官衙域の西端部にあたる日吉地区官衙跡において住宅建設に伴う届出が1件あり、周辺官衙域の様相を把握するため確認調査を実施した。

また、福岡県教育庁総務部文化財保護課による公開活用事業の一環として、JR水城駅付近の特別史跡水城跡の土塁断ち割り部における調査を、同じく文化財保護課による環境整備事業の一環として特別史跡大野城跡で増長天地区礎石群の確認調査を実施した。

報告書は、25年度に引き続き、大宰府政庁周辺官衙跡の正式報告書である『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅵ－不丁地区図版編一』及び『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅶ－大楠地区遺構編一』の2冊を刊行した。

調査回数	調査地区略称	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第224次調査	6AYQ-A-Q	14.31	20140626	日吉地区官衙跡
大宰府史跡第225次調査	6AYT-A-J	223.55	20140818～20150327	蔵司地区官衙跡
水城跡第58次調査	6AMK-L	139.00	20141202～20150330	水城跡
大野城跡第5-3次調査	6AON	148.14	20140128～20150320	大野城跡

#### ○大宰府史跡第224次調査（日吉地区官衙跡）

調査地は、大宰府政庁周辺官衙のうちの日吉地区に所在し、個人住宅の建築申請が提出されたことを受けて、申請地内の遺構面の標高や状況等の情報を得るため確認調査を実施した。

調査対象地の北寄りと中央部にそれぞれ1本ずつ、東西方向の確認トレンチを設定して調査を行った結果、調査区西側は旧御笠川の氾濫に伴う砂層の堆積がみられ、遺構面も削られていたが、東側では南北方向の溝状遺構を確認した。溝状遺構は出土した瓦片や土器片などから8世紀以降に掘削されたとみられ、条坊の区画内を仕切る区画溝の一つと推測される。



大宰府史跡第224次調査堆積状況（南東から）

#### ○大宰府史跡第225次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は、大宰府政庁跡の西側にのびる蔵司丘陵の南半部平坦地に位置する。蔵司地区は、調査対象面積が3万㎡に及ぶため、平成21～25年に全域を対象として確認調査を行い、その成果をもとに25年度に「大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区の重点調査の方針」を策定した。これにもとづき、26年度

より5ヶ年計画で重点調査を開始しており、26年度は大型礎石建物跡 SB5000 が存在し、蔵司地区の中枢部と目されるD地区の調査を行った。

調査の結果、SB5000 については近・現代における遺構の削平が著しいものの、基壇は想定されていたよりも低く、現状では基壇化粧（外装）の痕跡が確認できないこと、身舎桁行9間×梁行2間の南北に廂を持つ東西棟建物であること、建物の周辺に雨落溝がめぐることなどを確認した。東西長は37m以上の規模を持つ。また、SB5000の南側に近接して掘立柱建物跡の存在が明らかとなった。層位的な関係からSB5000より先行する建物とみられ、本地区において建物の変遷があることを確認した。

調査成果を受けて26年10月25日（土）に現地説明会を開催し、160名の参加があった。

#### ○水城跡第58次調査（JR切り通し部）

福岡県教育庁総務部文化財保護課による、公開活用事業を兼ねた環境整備事業の一環として、確認調査を実施した。調査対象地は、大正2年（1913）に旧国鉄が線路を複線化するため拡張工事を行った際に、東京帝国大学文学部黒板勝美教授と九州帝国大学医学部中山平次郎教授が断面の観察調査等を行った箇所である。25年度より確認調査を行っており、26年度調査は2か年目にあたる。

調査の結果、土塁前面の崩壊を防ぐためと考えられる、背面側に下るように盛土層を傾斜させる「傾斜版築」や、軟弱な地盤を補強し、不等沈下や円弧すべりなどによる土塁の崩壊を防ぐための「敷粗朶」などの技術が用いられていたことを確認した。特に2か年目の調査では、これまでは攪乱で不明であった土塁北側の前面部において、築造当初とみられる積土を確認する成果があった。なお、本調査区については、調査成果を基にして、築造当時の積土と同質の材料を用いた版築工法によって土塁断面を被覆して植栽を行い、次年度以降の本格的な整備に備えている。

このような水城跡の調査成果を踏まえながら、26年6月1日（日）と8月30日（土）の2度にわたって公開活用事業の一環として、「特別史跡水城跡100年ぶりの土塁断面大公開」を開催した。本格的な整備着手前、100年ぶりの調査によって姿を現した巨大な水城跡の土塁断面を広く県民へ公開し、調査



大宰府史跡第225次調査南東部（南から）



大宰府史跡第225次調査南部（南から）



大宰府史跡第225次調査雨落溝検出状況（東から）



水城城跡第58次調査土塁断面

成果を報告するとともに、史跡保護への理解を求め、ことを目的として実施した。ここ数年来、大宰府史跡に関する県民の関心は高く、6月1日が900名、8月30日が800名で、両日合わせて1,700名の見学者を迎えることができた。なお、この断面公開は水城・大野城・基肄城築造1350年事業実行委員会の事業の一つとしても位置づけられ、関係自治体が連携して運営にあたった。



水城跡断面公開風景

### ○大野城跡第5-3次調査（増長天礎石群地区）

調査地は大宰府口城門の北にあって四王寺林道の西に接する増長天礎石群地区である。昭和48年の調査で4棟の礎石建物がみつかると、その後整備されていたが、経年劣化等が目立つことから、福岡県教育庁総務部文化財保護課により再整備が行われることとなり、建物の構造や変遷等に関する追加情報を得るため25年度より確認調査を行っている。今次調査は2か年目にあたる。



大野城跡第5-3次調査地全景（北東から）

調査では、昭和48年度調査区の再掘削のほか、一部で新規にトレンチを設定して掘立柱建物跡の構造や変遷を追求し、建物跡の変遷については前回の調査成果を追認したほか、あらたに雨落溝などを確認した。

### ◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに5ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

26年度の指導委員会は、10月21日（火）・22日（水）の両日に開催した。26年度は第9次5ヶ年計画の3年次にあたることから、25年度の実績報告、26年度事業の中間報告と協議を行い概ね了承を得た。また、特別史跡水城跡の整備について同整備推進協議会が行った基本設計（案）を報告した。なお、委員名簿は以下のとおりである。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

（平成27年3月31日現在）

	氏名	所属	専門
委員長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学大学院教授	歴史学
委員	八木 充	山口大学名誉教授	歴史学
	狩野 久	元岡山大学教授	歴史学
	坂上康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学

委員	松村恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	高橋 章	求菩提資料館長	考古学
	鈴木嘉吉	元奈良国立文化財研究所長	建築史学
	箱崎和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	杉本正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	渡辺定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	林 重徳	佐賀大学名誉教授	土木工学

### ◎福原長者原遺跡の調査支援

福原長者原遺跡は行橋市に所在し、東九州自動車道建設に伴う発掘調査によって大規模な古代官衙跡であることが判明した。これをうけて、行橋市教育委員会では官衙全体の範囲や構造を把握するため確認調査を実施しており、当館では大宰府関連遺跡調査の一環として発掘調査の支援を行った。

### 【文化財調査室文化財調査班】

文化財調査班の主たる業務は国の機関等及び県事業に関わる発掘調査および報告書作成である。26年度の発掘調査は、祓川総合開発事業（伊良原ダム建設）のほか5件の県事業について実施した。

東九州自動車道は、九州縦貫自動車道小倉 JCT から東九州を縦断して福岡・大分・宮崎・鹿児島各県を結ぶ延長 436 km の高速道路である。新設区間は苅田北九州空港 I. C. ～豊津 I. C. 間 16.0 km、椎田南 I. C. ～県境 14.8 km で、築城 I. C. と椎田 I. C. の改築、豊前 I. C. と上毛スマート I. C. が新設され、福岡県内では 17 年度に苅田北九州空港 I. C. まで、25 年度には行橋 I. C. までが、そして 26 年度には椎田南 I. C. ～豊前 I. C. 間を除く路線で供用が開始された。今後は、28 年度中に全区間が供用開始の予定である。椎田 I. C. 以北の工事は西日本高速道路株式会社（ネクスコ西日本）九州支社福岡工事事務所が、椎田南 I. C. から南は同中津工事事務所が担当している。発掘調査は 19 年度から開始し、以降、用地取得の進捗に併せて実施しており、24 年度で福岡工事事務所担当区間を完了した。中津工事事務所担当区間に関しては 2 か所の収用案件を残すほかは現地調査を終了している。なお、このうち 1 か所の試掘調査を 26 年度末に行い遺跡が確認されたため、27 年度当初から発掘調査に着手している（調査主体は市。当館は支援）。27 年度中にはすべての報告書作成を完了する予定である。



下伊良原下地ヶ原遺跡 調査区全景



下伊良原下地ヶ原遺跡 調査区全景

県事業としては、29年度に竣工予定の五ヶ山ダム建設にかかる現地調査を25年度に完了し、26年度は引き続き伊良原ダムの発掘調査を行っている。伊良原ダムについても竣工は29年度に予定されている。その他、県道英彦山添田線建設事業、同苅田採銅所線建設事業、同柳川筑後線建設事業、県立伝習館高校建替事業、沖端川激甚災害特別事業関連事業に係る発掘調査を行った。

以下、26年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、数値などは概数であるため詳細は本報告書に抛られたい。

#### ○下伊良原下地ヶ原遺跡（京都郡みやこ町）

下伊良原下地ヶ原遺跡は、祓川の左岸丘陵傾斜地に立地し、南北両側を祓川に向かう谷によって限られる。調査地の現状は川に向かって段造成が行われている状況であった。発掘調査で検出した主な遺構は、縄文時代の遺物包含層、戦国時代から江戸時代にかけての集落・墓地、土坑、谷部の石組み遺構、ピットである。

縄文時代では、段造成の先端部の旧地形が遺存する箇所部分的に包含層が存在し、縄文時代早期から後期にかけての遺物が僅かに含まれていた。戦国時代から江戸時代にかけての遺構は掘立柱建物跡3棟、土坑11基、土壇墓である。また、すでに墓石や石塔の調査を完了していた調査対象地最上段の下地ヶ原石塔群下層部分では改葬時の攪乱が著しく旧状を留めていない部分が多かったが、江戸時代から近現代にかけての土壇墓16基を確認し、一部には人骨も遺存していた。また、中世に遡るとみられる五輪塔の部材も原位置をとどめておらず、墓石の台石として転用されている状況であった。このほか昭和期の炭窯2基を調査し、うち1基は煙道を2か所にもつタイプであった。

#### ○上伊良原高木神社跡（京都郡みやこ町）

上伊良原高木神社は下伊良原高木神社と同様、修験道の山として全国的に知られる英彦山の神領に置かれた48の大神事社の一つであり、平安時代弘仁10年（819）に創始されたと伝えられ、明治の修験道禁止令によって社名を変えた。移転等の言い伝えはないが、昭和27年に拝殿・幣殿を改築したという記録がある。

調査着手時、本殿・末社跡は礎石・基壇を残してほぼそのままの状態であったが、拝殿跡は全面に客土がなされて、礎石など全く見えない状態であった。

末社南西では造成した客土の中に埋め込まれた一辺1.5mほど、高さ1m強の方形石組を確認した。南辺の基底部近くでは2個の巨石を並べていた。

拝殿跡下層では当初地山と考えていた黄褐色砂上で焼土塊・炭を確認し、立石の前で火を用いた祭りが行われていたようである。

石垣は8列確認した。調査前から見えていた石垣は本殿と拝殿の間の石垣2列（石垣1・2）と境内地を囲む石垣（石垣5）で、これらは花崗岩切石を用いた間知石積である。それよりも古い遺構として石垣5の内側に並走するようにして造られた自然石を積んだ石垣6がある。石垣5・石垣6の間には「サクラビール」（大正2年（1913）～昭和17年（1942）頃）の空き瓶が数本埋め込まれていて、石垣6を構築したおおよその時期が推測できる。このほか、石垣6に連なると思わ



上伊良原高木神社跡 調査区全景

れる小規模な石垣を御輿庫南西隅付近で、また、石垣6北辺の内（南）側に平行するように配置されるが、東端で大きく曲がって石垣6に接して終わる石垣7を確認した。石垣7の前面（北側）では江戸時代の土器類や寛永通宝が出土している。石垣8は拝殿犬走りの下に潜る小礫を帯状に乱雑に並べたものである。

境内北の一段低い部分に開けた南北方向のトレンチでは石列と道路跡と思われる石敷きが見つかった。石列は南端が石垣5に接していて5mの長さで検出し、その西側には小石が敷き詰められていて、非常に硬化した面（「舗装」）となっていることから道路跡を想定した。石列の際は「未舗装」で、舗装面の東側ラインは石列に並行となることから、石列は道路を意識して作られたものと思われる。石列東側は巨石が露出し、その間に多くの土器が完形あるいは細片化して出土した。祭事後の廃棄の場であったようである。

境内南区では、御輿庫南西部、石垣5に連続すると思われる小規模な石積の南側近くで中央部に陶器甕を置いた小便器であると思われる遺構が検出された。

出土遺物の大部分は江戸時代の土器類である。ただ、一部平安・鎌倉時代に遡る土器が散見されていて、古くからこの土地が使用されていたようであるが、高木神社の起源を云々できるような材料は得られていない。また、厚く堆積した黄褐色砂層から縄文土器が若干出土しているが、二次的なもので、遺構も見られなかった。

拝殿下で検出した炭・焼土層が唯一祭祀を思わせる痕跡であり、それに伴う土器はないものの、良好な状態の炭化物があることから科学的手法（ $C^{14}$ 年代測定法）を用いて祭祀の年代を推測できる。

#### ○上伊良原善治遺跡（京都郡みやこ町）

試掘調査により地表下1.5mの深さで土坑と思われる「落ち込み」を検出したことから、面的な調査を行ってその性格を確認した。

対象地の大部分では巨大な花崗岩がかなりの密度で検出された。花崗岩が所在する範囲には水田耕作土である青灰色土や砂質土が混在していて、対象地西端付近でかろうじて黄褐色の安定した地山が現れた。この部分には岩塊はなかった。試掘トレンチで検出した「落ち込み」を掘り下げると、高さ0.5mほどの石垣が現れた。この石垣は北に面を向けていて、石垣前面で水平に堆積する厚さ0.2mほどの青灰色土が現れた。これは水田耕作土であり、この石垣が棚田を構成したものであることが想定された。



上伊良原高木神社 手前：拝殿跡、奥：本殿跡



上伊良原高木神社跡 石垣検出状態



上伊良原善治遺跡 調査区全景

巨大な岩塊は昭和 50 年代の洪水の痕と思われ、そのときに壊れた石垣や流入した岩塊を埋め込み、客土を行って新たに水田を造成したようである。

#### ○下伊良原宮園遺跡（京都郡みやこ町）

調査対象地は、下伊良原高木神社の故地であったという伝承がある。試掘調査によって埋蔵文化財の存在を確認した後に仮設道路が設置されていたため、仮設道路を除去して発掘調査に着手した。26 年度内に終了の見込がなかったことから、試掘トレンチの清掃、新たに数本のトレンチを入れて土層（造成）の確認等を行った。

調査対象地の北東隅では花崗岩が風化したパイラン土が露出、南西に向かって地形が下り、茶褐色土・黄褐色土が堆積して現状で平坦な地形となっている。堆積層の下位に黄褐色粘質土があって、この土層の性格についてはまだ確認できていない。パイラン土上で複数の柱穴を検出していて、その柱穴がどの堆積層と対応するか、27 年度に慎重に調査する予定である。

#### ○知恩寺跡（田川郡添田町）

知恩寺跡は中世山城である岩石城の南側にある小峰の西側山麓斜面に位置する。東側の小峰には、豊臣秀吉の九州征討の際に、秋月氏一党との激戦が繰り広げられたことで知られる岩石城の出城があったとされ、昭和初期までこの地にあった知恩寺は、岩石城の守備隊に属していた佐々木平左衛門なる人物が、岩石城における攻城戦の敗戦後に死者を弔うために創建したと伝えられることから、すくなくとも近世初期以降、この地に寺院が営まれていた可能性が極めて高い。

調査地は 3 段ほどの造成段があり、あいだに小河川も流れていたことから、調査区を 2 区にわけ、そのうち 1 区を反転調査したことにより、表土剥ぎは計 3 度にわたって行うこととなった。

1 区で検出した主な遺構は、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 5 基、池跡 1 か所である。うち、掘立柱建物跡は中世の遺構で、知恩寺跡の建立以前にあたる 12 世紀前後に集落が成立していたことが確認された。池跡は、知恩寺跡に関連する遺構であろう。2 区からは土坑を



下伊良原宮園遺跡 調査区全景



下伊良原宮園遺跡 西辺南北石垣



知恩寺跡 1 区上段全景



知恩寺跡 7・8号土坑（近世墓）

3基検出した。大きく削平されていたがおそらく近世墓と考えられる。

#### ○山口古墳群（京都郡苅田町）

山口古墳群は、行橋平野の西北端、水晶山から延びる舌状台地上に位置する。標高は65m前後で、周囲の低地から40～50mの比高差がある。隣接する東側の丘陵には山口平原古墳群や山口北古墳群が、西側丘陵には倉谷古墳群、山口南古墳群があるなど、丘陵ごとに古墳群が認められる。



山口古墳群の調査

今回調査した古墳は山口古墳群12基のうち、6基である。6基すべてが円墳で、石室は複室構造を呈する。23年の調査時に廃土捨て場が狭小であったため、古墳の石室ならびにトレンチ調査のみを行っている。今回工事計画が変更になったことから、墳丘の掘削を行った。

墳丘築造に伴う祭祀等の痕跡は認められず、下層遺構も検出されなかった。ただ、墳丘下から弥生土器が1点出土していることから、周辺に遺跡が存在する可能性がある。

#### ○津島福市遺跡（筑後市）

津島福市遺跡は、周知の包蔵地である志西野々遺跡の南側に位置する。遺構としては土坑5基、溝7条、谷を検出した。時期的に最も遡る遺構は、縄文時代早期の風倒木痕と思われる5号土坑である。埋土からは押型文土器や石器が出土した。また弥生時代の1号土坑では金海式甕棺片や甕が出土した。1号溝は谷の上端に沿うように東西方向に延び、台地と谷との境目で検出した遺構である。谷の一部の可能性はある。2・4号溝は浅く、底には凹凸痕跡が見られることから道路跡で、この2・4号溝に沿うように延びる3号溝は側溝などの可能性がある。これらの溝は埋土から近世や近代の陶器片が出土しており、近代まで使用されたものと考えられる。他に目立った遺構はなかったが、南側で検出した谷からはこれらの土器以外にも須恵器や土師器、黒色土器、陶磁器などの破片が出土した。



津島福市遺跡 全景写真



津島福市遺跡 2～4号溝

#### ○本町遺跡（柳川市）

遺跡は柳川城下町遺跡内の士族居住区の北東部に位置し、江戸時代の幹線道路である本町通り沿い町並みの裏手の居住区にあたる。

25年度からの継続調査を行い、南棟部分の西側と体育館プール間の渡り廊下部分の調査を行った。南棟西側の調査区では遺構面が2面見られた。南棟西側は南棟の基礎と中学伝習館の寄宿舎棟が調査区

の大半を占めており、1面の遺構はほとんど確認できなかったため、南棟基礎の下の2面目の調査から開始した。

2面目の遺構面は18世紀中葉のもので、出土遺物は少ないがその下には18世紀前葉と見られる遺構が確認された。遺構は大型の土坑で溜井と見られ、導水施設が残っていた。周囲には建物跡の痕跡がないので、裏庭であったと思われる。溜井の底からは猛禽類の骨や金箔の押された板片などが出土した。2面目の下位からは絵図にはない区画溝が確認され、城下町形成の過程の一端が明らかになった。

渡り廊下部分では、明治時代中期以降の中学伝習館の遺構が18世紀中葉の遺構面まで達していなかったため遺構面の残りが良く、江戸時代寛政年間の絵図に描かれた屋敷地の区画溝が確認できた。

27年度には東棟部分の調査を行う予定である。

#### ○保加町遺跡（柳川市）

遺跡は柳川城下町の北端に位置し、久留米柳川往還道の出橋御門から沖端川を渡った対岸に位置する。

調査地点が面している県道は久留米柳川往還道を踏襲した道路であることから、江戸時代の道路沿いに作られた町屋跡が検出された。地表面から50cm程の深さで火災痕跡の下に広がる遺構面が見られたが、遺構面の時期は18世紀中葉から後葉だったので、火災痕跡は1780年の外町大火のものと思われる。この遺構面では3棟の礎石建物跡が検出され、うち1棟は石組の側溝の上面を礎石としていた。この面から1mほど下に整地面があり、そこからは掘立柱建物跡が2棟検出された。この整地面は17世紀中葉のものと思われる。さらにその下の道路沿いに田中吉政が建設した田中道の側溝と見られる大溝が検出された。したがって、17世紀初頭に造られた田中道は前葉には埋め立てられ、城下町を拡張する目的で外町が形成されたものと考えられる。



本町遺跡 導水施設検出状況



本町遺跡 南西棟西側全景



保加町遺跡 第2面全景

#### 平成26年度文化財調査班実施の発掘調査及び作成報告書一覧

##### 発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
下伊良原下地ヶ原遺跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	3,000	140201-150226	集落・墓地	ダム
上伊良原高木神社遺跡	京都府みやこ町犀川上伊良原	3,000	140414-141126	神社	ダム

上伊良原善治遺跡	京都郡みやこ町犀川上伊良原	200	141008-141222	集落	ダム
下伊良原宮園遺跡	京都郡みやこ町犀川下伊良原	1,000	150113-150320	集落	ダム
知恩寺跡	田川郡添田町添田	630	140725-141014	寺院	県道
山口古墳群	京都郡苅田町山口	1,000	140924-141016	古墳	県道
津島福市遺跡	筑後市津島	1,000	141020-141226	集落	県道
本町遺跡	柳川市本町	1,110	140408-140908	城下町	学校
保加町遺跡	柳川市保加町	80	141215-150107	城下町	河川

## 作成報告書

タイトル	シリーズ	調査原因
上片島遺跡群 6 地区	一般国道 201 号行橋インター関連関係埋蔵文化財調査報告 2	国道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅳ区Ⅰ	一般国道 201 号行橋インター関連関係埋蔵文化財調査報告 3	国道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅳ区Ⅱ	一般国道 201 号行橋インター関連関係埋蔵文化財調査報告 4	国道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅲ区Ⅱ (上下巻)	一般国道 201 号行橋インター関連関係埋蔵文化財調査報告 5	国道
皆見大塚古墳、カワラケ田遺跡 2 次調査 3 (Ⅳ区)	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 17	東九州自動車道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅰ区Ⅱ	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 18	東九州自動車道
矢留堂ノ前遺跡 (上巻・下巻)	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 19	東九州自動車道
京ヶ辻遺跡 2 区、安武深田遺跡 B - 2 遺跡、C 遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 20	東九州自動車道
鳥越下屋敷遺跡、大村湯福遺跡、鬼木鉾立遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 21	東九州自動車道
塔田琵琶田遺跡第 2 次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 22	東九州自動車道

## ○記者発表

26 年度は国道 201 号行橋インター関連発掘調査事業の最終年度で、報告書を刊行するにあたり新知見が得られたことから、行橋市延永ヤヨミ園遺跡出土の導水施設について 27 年 3 月 16 日に記者発表を行った。

発表の内容は、古墳時代の導水施設としては九州初出土であること、奈良県纏向遺跡と並んで国内最古級であること、機能として首長が行う祭祀に関連する可能性が高いこと、の 3 点である。



導水施設木樋記者発表

## [文化財調査室保存管理班]

### ◎文化財の保存処置

#### ○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースなどの薬剤含浸による強化処理、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。今年度は、4 遺跡 92 点の処理を行った。

#### ○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などを用いた事前調査、土砂や錆を

除去するクリーニング、脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処理といった工程で行っている。今年度は16遺跡367点の処理を行った。

### ○遺跡における遺物の応急処置

宮崎県えびの市教育委員会による島内139号地下式横穴墓の調査においては、短甲、大刀、馬具等の副葬品が未盗掘の状態で発見され、さらに副葬品に装着される有機質が極めて良好な状態で発見された。当館では、調査を担当するえびの市教育委員会、鹿児島大学の依頼により、X線CTスキャナを活用した有機質遺物の発見と記録を目的とした遺物取り上げ作業を行った。

作業は、昨年度、古賀市船原古墳遺物埋納坑において実践した方法を応用して行い、取り上げ後のX線CT調査により、馬具に用いられた繊維や革と想定される有機質の存在を明らかにし、三次元情報として記録することができた。

また、苅田町与原遺跡において出土した木製品について、調査主体である苅田町教育委員会の依頼により、医療用ギブス等を用いた取り上げ作業を行った。



宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓における作業風景

### ○美術工芸品・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処置

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

26年度は、有害生物の被害がみられたとして、久留米市、朝倉市、宗像市、太宰府市、添田町、甘木歴史資料館および当館受け入れ資料について、処置を行った。

### ○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間を通じて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

### ○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度の調査対象は、南淋寺収蔵庫（朝倉市）、個人宅収蔵庫（八女市）、求菩提資料館展示室、福岡県立大学書庫であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータログを設置、数か月おきにデータ収集と定期点検を行った。これまでの調査により、各々の年間の温湿度挙動を把握することができつつあり、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

## ○各種文化財の科学的調査

26年度、外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	熊本県和水町教育委員会	国史跡田中城跡周辺地遺跡出土馬具等鉄製品	X線CTスキャナ	H26. 4. 11
2	(公財) 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	トレハロース含浸処理法にて保存処理を行った木材 サンプル	X線CTスキャナ	5. 1
3	筑紫野市教育委員会	原田地区遺跡群出土漆製品等	X線CTスキャナ 赤外線スキャナ	5. 14
4	久留米市教育委員会	高三瀨遺跡出土小型銅鐸	X線CTスキャナ	6. 2
5	小都市教育委員会	小都市松崎「中油屋」鴨居	赤外線スキャナ	6. 5
6	久留米市教育委員会	隈山遺跡出土梔子玉	蛍光X線分析	6. 30
7	熊本大学文学部歴史学科	東加瀬遺跡1区他2遺跡出土圧痕土器	X線CTスキャナ	7. 7
8	熊本大学文学部歴史学科	富山県小山貝塚他2遺跡出土圧痕土器	X線CTスキャナ	7. 17
9	(公財) 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	トレハロース含浸処理法にて保存処理を行った木材 サンプル	X線CTスキャナ	8. 8
10	みやこ町教育委員会	生立八幡神社山笠用具 高木神社所蔵棟札	赤外線スキャナ	9. 1
11	古賀市教育委員会	青柳篠竹地区遺跡出土金属製品、蔵骨器、鉛ガラス	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	9. 1
12	大野城市教育委員会	善一田(善一山)遺跡第4次調査出土鉄刀	X線CTスキャナ	9. 17
13	長崎県佐世保市教育委員会	鬼塚古墳出土鉄製品	X線CTスキャナ	11. 6
14	山口県岩国市教育委員会	中津居館跡出土銅銭	X線CTスキャナ	11. 12
15	宮崎県えびの市教育委員会	島内139号地地下式横穴墓出土馬具等金属製品	X線CTスキャナ	11. 12
16	大刀洗町教育委員会	高樋辻遺跡出土甕棺内容物	X線CTスキャナ	11. 17
17	久留米市教育委員会	古賀ノ上遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	11. 21
18	(公財) 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター	水吉天神段遺跡出土鉄鏃	X線CTスキャナ	11. 26
19	(一財) 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室	観音寺狼谷山遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	12. 1
20	宇美町教育委員会	正楽遺跡他出土金属製品	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	12. 1
21	熊本県玉名市教育委員会	木船西遺跡他出土金属製品	X線CTスキャナ	12. 3
22	太宰府市教育委員会	大宰府条坊跡第307次調査出土懸仏、香炉	X線CTスキャナ	H27. 1. 30
23	佐賀県小城市教育委員会	中村梧竹書「旧雲」	赤外線スキャナ	3. 11
24	筑紫野市教育委員会	前畑遺跡出土陶器壺	X線CTスキャナ	3. 18

上記のほか、館内資料については、随時、科学的調査を実施している。

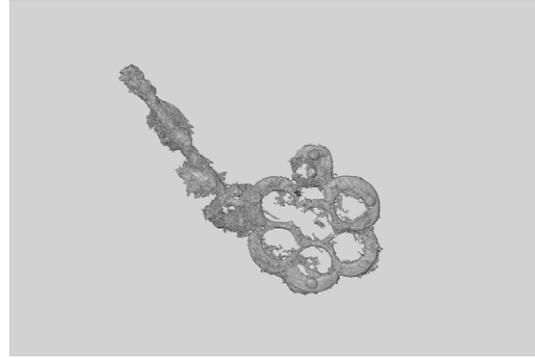
## ○外部機関への協力・研修など

九州国立博物館において開催された、みんなでまもるミュージアム事業、福岡市元岡G6号墳出土庚寅銘大刀調査委員会、土井が浜遺跡・人類学ミュージアム学術文化検討会、春日市文化財専門委員会、(一社)文化財保存修復学会災害調査部会に委員として出席した。

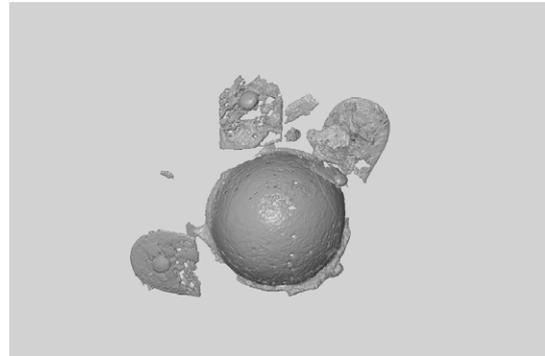
また、博物館等の保存施設新築、改築に関して、八女市教育委員会、朝倉市教育委員会からの相談に対応した。その他、保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談には随時対応している。

## ◎船原古墳出土資料に関する共同研究

25年度に遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物



花形鏡板付轡の出土状況とCTデータ解析により抽出された三次元像



辻金具の出土状況とCTデータ解析により抽出された三次元像

について、26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を行うこととした。

26年度は、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出した。そして、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。

作業の結果、出土遺物は、現時点で502点を数え、一点ずつに分離された遺物のCTデータにより、遺物個々の詳細な検討が行えるようになり、馬具のセット数、個体数を推定することが可能となった。

今後は、遺構の三次元計測データと遺物のCTデータを合成し、三次元で記録された遺物出土状況および平断面図の作成、遺物個別のCTデータの詳細解析により有機質情報の抽出、可視化を推進していく予定である。

なお、本共同研究に際し、デジタルマイクロスコプおよび超深度マルチアングルレンズ（キーエンス社製）、分析型走査電子顕微鏡（日本電子社製）等を導入した。

## (2) 展 示

### ◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。

第1展示室では、常設展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示のテーマをより深化もしくは特化した内容の特集展示を23年度から開催している。26年度は3回開催した。特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり2～糟屋地区編～」は25年度の開催に続く第2弾であり、27年度も第3弾の開催を予定している。特集展示「大宰府の役所－大宰府政庁周辺官衙不丁地区成果展－」「日本最古級の導水施設木樋（延永ヤヨミ園遺跡出土）」は、ともに発掘調査報告書の刊行を記念して企画されたものである。

常設展示の内容をより深く理解して頂くために制作している「九州歴史資料館展示解説シート」については、特集展示および企画展の開催にあわせて新規に制作し、充実を図っている。

#### <常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界

#### <特集展示>

##### ・「福岡鉄道遺産ものがたり2－糟屋地区編－」

会期：平成26年6月17日(火)～8月6日(水)

後援：九州旅客鉄道株式会社

内容：明治以降、石炭や製鉄産業によって日本の近代化を支えてきた福岡県では、多くの旅客・貨物輸送に対応すべく、早くから濃密な鉄道



常設展示風景



特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり2－糟屋地区編－」

網が形成されてきた。その際に建設された橋梁などの鉄道施設の中には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものがあり、25年度よりその紹介展示を行ってきた。

シリーズ2回目となる今回は、かつて国営炭鉱を中心とした産炭地、糟屋地区の鉄道遺産の特集展示とパネル展を行った。特集展示では糟屋地区の鉄道形成に重要な役割を果たした志免鉱業所跡の出土資料を展示した。なお、本展は平成24～26年度の科学研究費「戦前期地域交通と政党・軍部の経済的関係の研究」の成果の一部である。

#### ・「大宰府の役所—大宰府政庁周辺官衙不丁地区成果展—」

会期：平成27年2月10日（火）～4月5日（日）

内容：奈良時代から平安時代にかけて、奈良や京都にあった中央政府の命令を受け、九州地方においては「大宰府」が律令制にもとづいて、西海道と呼ばれた九国三島を統治していた。

大宰府が国防・外交とともに、西海道の統治を遂行するにあたり、その中心となった施設が大宰府政庁である。しかし「大宰府」のすべての役割を政庁のみが果たしたわけではない。政庁の周辺には、事務や収納、生産、修理などさまざまな機能を担う役所（官衙）が配置されており、現在までに9つの官衙地区が発見されている。

今回の特集展示では、政庁跡の西南に隣接する官衙跡「不丁地区」の発掘調査報告書刊行をふまえ、その調査成果を紹介した。役所や役人の存在を示す硯や木簡、墨書・刻書土器、鍛冶・鑄造の工房関連遺物や漆付着土器、厨に関わる製塩土器、九州各地から納められた税の荷札木簡等を展示し、「大宰府」の統治を支えた不丁地区の全容と、大宰府による九州統治の実態に迫った。



特集展示「大宰府の役所」

#### ・「日本最古級の導水施設木樋（延永ヤヨミ園遺跡出土）」

会期：平成27年3月10日（火）～5月10日（日）

内容：国道201号行橋インター関連発掘調査で出土した、九州最古の祭祀系導水施設である行橋市延永ヤヨミ園遺跡の導水施設木樋を、共伴資料とともに記者発表後に展示した。

#### ◎平成26年度特別展 「福岡の神仏の世界—九州北部に華開いた信仰と造形」

会期：平成26年10月10日（金）～11月30日（日）

会場：九州歴史資料館第1・2・4示室

内容：九州の北部に位置する福岡は、大宰府が置かれて、律令国家による地方支配の重要拠点となり、また大陸との交流の窓口となりながら、個性的な歴史をはぐくんできた。そしてここには個性的な信仰文化も形成されて、福岡ならではの神仏の世界が華開くことになった。仏像や神像の姿は、あるものは洗練された都ぶりを見せ、あるものは大陸からの影響を見せ、そしてあるものは古来の伝統を感じさせる姿を見せている。そしてさらに福岡では、大陸から渡来した尊像が、親しく礼拝されている光景を目

にすることも、珍しくはない。福岡の神仏の世界は、日本の他の地方とは異なる充実をもっているのである。

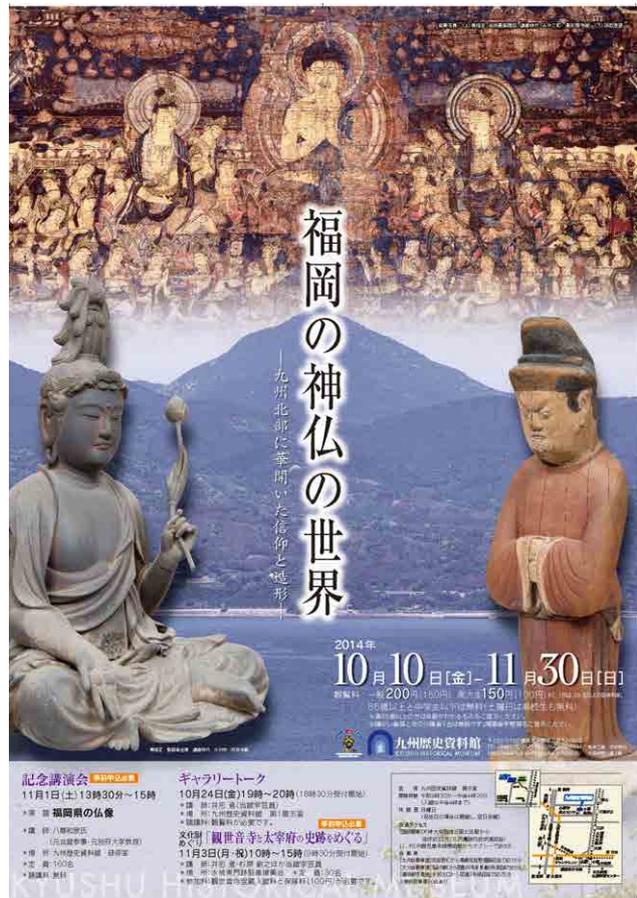
本展覧会では、このような福岡の神仏の世界について、近年新たに見出された作例を含む仏像の数々、そして、通常では目にすることができない神像の数々をも一堂に会して展示することで紹介した。仏と神は、車の両輪のように日本の信仰文化を牽引してきたが、神像については調査が困難であるために、仏像に比べると顕彰が遅れていた。また現代では、明治初年の神仏分離に至るまで、千年の長きにわたって神と仏とが共生していたことさえ、多くの人々が忘れてしまっている。福岡の個性的でゆたかな神仏の世界や、神仏が共生する日本の信仰の原風景について、「福岡の仏像」、「福岡の神像」、入宋僧や渡来仏をあつかった「海を渡った人と神仏」、信仰にかかる出土遺物をあつかった「神仏の周辺」、太宰府天満宮を描いた絵画作品を通して信仰空間の変遷を考えた「神仏の風景」の、5つのテーマのもとに展示を構成して紹介した。

展示資料は、国指定県指定を中心としつつ、未指定のものも積極的に採り上げ、福岡県内の仏像や神像、それに関わる文化財の、最高水準のものを揃えた。展示件数は65件だが点数では100を超え、仏像と神像も60軀を超えていたので、第1展示室は曼荼羅のごとく賑やかな景観となった。会期中の入館者数については6,751人ながら、来館者の滞在時間が長く、繰り返しての来館者も多く、図録の売れ行きも好調で、反響を体感することができた。なお、同時に、第2展示室では浦仏刻所の協力で、造像や修理に関する展示を、第4展示室では福岡県文化財保護課主催で、福岡県指定の仏像の全てを、写真パネルで紹介する展示も行うことができた。

会期中には、11月1日（土）に記念講演会「福岡県の仏像」（講師：八尋和泉（元当館参事・元別府大学教授））、10月24日（金）にギャラリートーク、11月3日（月・祝）に文化財めぐり「観世音寺と太宰府の史跡をめぐる」などの関連イベントを開催し、また、10月15日・22日・29日、11月5日・12日・19日（全て水曜日）に、関連九歴ゼミ（夜間講座）「福岡県の仏像と神像」を開催した。

## ◎企画展示

26年度は、第1展示室の一部および第2・4展示室を会場として、7回の企画展を実施した。第1展示室では、県民の関心の高いテーマを取り扱った展示や最新の調査研究成果を紹介する展示を第1展示室の約2分の1もしくは3分の1を使って行っている。第2・4展示室では、春の学校教育支援を目



特別展「福岡の神仏の世界」ポスター

的としたもの、夏の発掘調査の成果を速報として紹介するものを毎年定番として開催しているほか、当館のコレクション展や他館との共同企画展を行うことが定着化してきている。

春は小学6年生の歴史学習を支援する第20回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催し、小郡市内の小学校を受け入れた。夏は東九州自動車道の整備にともなう発掘調査の成果を速報的に紹介した第21回企画展「発掘速報展2014」を行い、豊前地域や大宰府史跡における最新の発掘調査成果を中心に展示した。

今夏は、「九歴の夏は城」を共通テーマとして、第1展示室を二分し、第22回企画展「徹底解説!! 水城のすべてー古代の築堤・貯水技術ー」と第23回企画展「黒田官兵衛と城」を同時開催した。前者は水城・大野城・基肄城築造1350年を記念したものであり、後者はNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映により福岡藩祖・黒田官兵衛への関心が高まっていることに応えたものである。研究成果展としては、当館所蔵品である野田大塊（卯太郎）文書の調査研究成果を紹介した第24回企画展「政治家野田卯太郎から見る日本の近代」と、古墳文化の終焉過程から律令国家形成期にかけての墓制の転換をテーマとした第26回企画展「古墳から火葬墓へー北部九州における古墳の終焉ー」をいずれも第1展示室の一部を使い開催した。

また、共同主催展示としては、壱岐市教育委員会と第25回企画展「海の王都・一支国ー原の辻遺跡と壱岐の至宝ー」を第1展示室の一部と第2・4展示室を会場に行い、重要文化財である原の辻遺跡や双六古墳出土品など、壱岐島の遺宝が一堂に出陳された。

#### ○第20回企画展「きゅうおにとタイムとラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期：平成26年4月8日（火）～平成26年7月21日（月・祝）

会場：第2・4展示室

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・奈良時代をタイムトラベルをしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校高学年の歴史学習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用した結果、第1展示室では実践しにくかった、子どもたちにもわかりやすい展示を実践した例となった。



第20回企画展「きゅうおにとタイムトラベル」

会期中には、小郡市内の小学校6年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

また、年度後半の平成27年3月10日（火）から、当企画展とほぼ同じ内容で第27回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催している（詳細は27年度年報に掲載）。

#### ○第21回企画展「発掘速報展2014」

会期：平成26年7月23日（水）～10月5日（日）

会場：第2展示室

内容：資料展示とパネル展示：延永ヤヨミ園遺跡（行橋市）、皆見大塚古墳（みやこ町）、鏡迫古墳群（上

毛町)、西蒲池池淵遺跡〈柳川市)、本町遺跡〈柳川市)、大宰府跡〈太宰府市)、大野城跡〈宇美町)の出土品計7遺跡

パネル展示のみ:下伊良原上高木神社跡〈みやこ町)、下伊良原庄屋敷跡〈みやこ町)、下伊良原西の塚遺跡〈みやこ町)、福岡菜切古墳群〈築上町)、宮原金山遺跡〈香春町)、水城跡〈太宰府市・大野城市)、尼寺跡遺跡〈那珂川町)計7遺跡

内容:当館では、毎年県内各地に所在する遺跡の発掘調査を実施し、郷土の歴史を知る上で数々の重要な成果を挙げている。23年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催している。26年度は工事等に伴う発掘調査のほか、大宰府での調査成果も含め展示を行った。

展示では遺跡からの出土品とともに、各発掘担当者が作成した解説・写真パネル、また映像を用いて、来館者の方に発掘当時の雰囲気を感じることができる展示を実施した。

また、期間中の8月2日(土)に関連事業とし「調査報告会2014」を開催し。展示した遺跡のうち注目される以下の3遺跡について、調査担当者がその調査成果を分かりやすく紹介する講座を実施した。参加者は111名である。

- ・延永ヤヨミ園遺跡:古代の文字発見!? 学芸調査室 酒井芳司 文化財調査室 城門義廣
- ・本町遺跡:柳川の近世城下町、発見! 文化財調査室 秦憲二
- ・大宰府跡:言わずと知れた遠の朝廷! 学芸調査室 岡田諭

#### ○第22回企画展「徹底解説!!水城のすべてー古代の築堤・貯水技術ー」

会期:平成26年8月16日(土)~9月28日(日)

会場:第1展示室弥生・古墳・古代(一部)コーナー

内容:『日本書紀』によると、白村江の戦いにて唐・新羅の連合軍に敗れた翌年の天智天皇3年(664)に水城を築造したとされる。平成26年はこの水城が築堤されてちょうど1350年の節目の年にあたるため、水城築堤1350年を記念し、九州歴史資料館をはじめとして各調査機関が行ってきたこれまでの水城の調査成果に基づき、水城の全容を紹介する展覧会を開催した。

水城は当時の朝鮮半島における最新の築堤・貯水技術の粋を結集して築造された築造物であるため、特に築堤・貯水技術に焦点を当てた展覧会とし、水城跡に関する出土遺物のほか、時代・技術ともに共通する大阪府狭山池における築堤技術に関連する出土資料も特別公開した。

なお、会期中の9月23日(火・祝)には、記念講演会として、「水城の構造と築造技術~現代土木技術者の視点から~」という演題で、佐賀大学名誉教授の林重徳氏に講演をしていただき、191名の参加があった。

#### ○第23回企画展「黒田官兵衛と城」

会期:平成26年8月16日(土)~9月28日(日)



第21回企画展 発掘報告会の様子



第22回企画展「徹底解説!!水城のすべて」

会場：第1展示室古代（一部）・中世・近世・近代コーナー

内容：福岡藩の藩祖である黒田官兵衛（孝高・如水）は、天文15年（1546）、播磨国（兵庫県）御着城を居城とする豪族・小寺氏の家老で、その

支城である姫路城主の家に生まれた。やがて織田信長のもと、天下統一を目指す豊臣秀吉の軍師となり、天正14年（1586）には九州に渡って豊前の諸城を攻め落と



第23回企画展「黒田官兵衛と城」

し、南九州へと転戦して秀吉の九州平定に大きく貢献し、後には嫡子長政と共に筑前に移って福岡城を築城、福岡藩52万石の礎を築いた福岡ゆかりの人物である。

官兵衛の生涯は、まさに合戦と築城に象徴されるもので、それも“負けない戦”・“落ちない城”という軍師としての才覚に裏打ちされたものであったと言える。

当企画展では、黒田官兵衛ゆかりの城跡や合戦にかかわる資料を中心に、“名軍師”・“築城の名手”といわれた官兵衛の足跡をたどりながら、官兵衛が秀吉の天下統一や福岡藩の成立に果たした役割を紹介した。

なお、会期中の9月7日（日）には、記念講演会として、「官兵衛の築城を探る－福岡城を中心に－」という演題で、滋賀県立大学教授の中井均氏に講演していただき、169名の参加があった。

また、福岡県立香椎工業高等学校がこれまで10領の甲冑を復元製作されており、企画展の一環として「黒田孝高所用甲冑（模造）・黒田長政所用甲冑（模造）の2両を借用し、展示期間中にエントランスにて展示を行った。写真撮影も許可いただき、来会者の記念撮影の場となった。

### ○第24回企画展「政治家 野田卯太郎から見る日本の近代」

会期：平成26年12月9日（火）～平成27年2月1日（日）

会場：第1展示室 中世～近代コーナー

内容：野田卯太郎（1853～1927、俳号：大塊）は、現在の福岡県みやま市出身の政治家・実業家である。三池で土木や紡績、銀行などの事業を興した一方、自由民権運動から政党政治家への道を歩み、後には筑後初の大臣となった。その生涯は産業勃興、自由民権運動、鉄道開業、大正デモクラシー運動、政党内閣など多くの出来事に連なり、そのまま日本の近代史に重なるものといえる。



第24回企画展「政治家 野田卯太郎から見る日本の近代」

本展では、この野田卯太郎の生涯を通して、日本の近代をながめていく展示とし、当館およびみやま市教育委員会が所蔵する野田宛の書簡、辞令、野田の日記、鉄道会社など野田が参画した企業の文書などを展示した。現小郡市出身の詩人、野田宇太郎の名前はこの野田卯太郎に由来するが、その資料も、野田宇太郎文学資料館の協力により展示した。

また、会期中の12月17日（水）には担当学芸員によるギャラリートークを行い、4名の参加があっ

た。さらに1月17日(土)には開催記念講演会として、福岡市博物館の有馬学館長による講演「地方の時代」が生んだ政党政治家一野田卯太郎の活動と関係文書の意義」を開催し、73名の参加があった。

なお、本展は平成24～26年度の科学研究費「戦前期地域交通と政党・軍部の経済的関係の研究」の成果の一部である。

### ○第25回企画展「海の王都・一支国 一原の辻遺跡と壱岐の至宝一」

会期:平成26年12月9日(火)～平成27年3月8日(日)

主催:九州歴史資料館・壱岐市教育委員会

会場:第1展示室弥生・古墳・古代コーナー、第2・4展示室

内容:福岡県と朝鮮半島の間には浮かぶ島・壱岐。古来より壱岐は交通・交易の要衝として重要な役割を果たしてきた。

歴史的にも非常に重要な壱岐を紹介するため、本企画展では、『魏志』倭人伝に記された「一支国」の王都・原の辻遺跡から出土した国重要文化財資料をはじめ、全長91mで長崎県最大の前方後円墳・双六古墳から発見された国重要文化財資料など「東アジアとの交流の歴史」を物語る資料を展示した。また、第2展示室における原の辻歴史年表と弥生時代に栄えた弥生集落カラカミ遺跡や車出遺跡群の出土品展示など「弥生時代の一支国」を体感できる展示空間も見どころとした。



なお、会期中の1月10日(土)には関連講座として、第10回九歴講座「一支国の王都・原の辻の全貌」と題し、壱岐市教育委員会学芸員の松見裕二氏に講演していただき、196名の参加があった。また、2月1日(日)には古代体験出張イベントも開催した。

### ○第26回企画展「古墳から火葬墓へー北部九州における古墳の終焉一」

会期:平成27年3月10日(火)～5月10日(日)

会場:第1展示室 古墳時代コーナー (一部)

内容:7世紀になると、大王墓や各地の有力豪族層の墓として築かれていた前方後円墳が姿を消し、代わって方墳や円墳が採用されるようになる。また、墳丘や石室の規模は縮小していき、副葬品も簡素になっていく。こうした変化は律令国家形成に向かう当時の社会変化を反映したもので、社会の成熟とともに旧来の墓制が衰退していく様子が窺える。



第26回企画展「古墳から火葬墓へ」

今回の企画展では、古墳時代墓制の衰退・消滅から、新たな律令時代の墓制である火葬墓の登場までを、筑前・肥前・豊前・豊後の古墳出土資料や調査時の写真から辿り、当時の社会を考える構成とした。また、本展の開催にあたっては、解説シートを製作し、年度が替わった4月15日(水)にギャラリートークを開催し、9名の参加があった。

なお、本展は平成24～26年度科学研究費(若手研究B『古墳時代墓制の終焉過程からみた律令国家形成期の北部九州』)の成果の一部である。

## ◎パネル展示

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、主に文化情報広場において実施している。

26年度は、例年行っている鉄道遺産や保存科学機器を活用した最新の研究成果のパネル展示など、計4回を実施した。なお、以下に取り上げるパネル展以外の時期には、開館時より継続的に実施しているパネル展「福岡県の世界遺産登録推進活動一宗像・沖ノ島と関連遺産群、明治日本の産業革命遺産群一」を実施している。

また、文化情報広場におけるパネル展とは別に、正面玄関右側の回廊において、当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡を紹介するパネル展も行っている。さらに第3展示室前の廊下では、第1展示室で行った企画展「黒田官兵衛と城」の終了後、平成26年10月7日（火）から12月27日（土）の会期でそのパネルを利用した展示も行った。

### ○パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり2～糟屋地区編～」

後援：九州旅客鉄道株式会社

会期：平成26年6月17日（火）～8月31日（日）

内容：特集展示に合わせ、戦前に糟屋地区を走った博多湾鉄道汽船（現 JR 香椎線、西鉄貝塚線）、筑前参宮鉄道（旧国鉄勝田線）などの鉄道遺産を写真で展示した。

### ○古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線

会期：平成27年3月24日（火）～6月28日（日）

会場：文化情報広場 文化財整理・保存科学見学回廊  
光学調査室

内容：平成25年に発見された古賀市船原古墳遺物埋納坑からは古墳時代の馬具等が大量に埋納され、その質の高さと豊富さが注目されているところである。当館では、発掘調査段階から、遺物の保存処置や科学的調査について支援を行っている。本展では、文化情報



パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線」

広場にて当館設置のX線CTスキャナを活用した新しい調査方法とその最新成果のうち、馬具の構造解析成果を中心に紹介し、さらにCTデータや遺構の三次元計測データから3Dプリンタで出力した5分の1スケールの出土状況デジタル模型を展示した。

## ◎その他の展示

### ○平成26年度筑紫地区文化財写真展—ちくし再発見—いのりの風景—

主催：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

会期：平成27年3月10日（火）～3月22日（日）

会場：文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川町）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、「いのりの風景」をテーマとし、各自治体内の祭礼等の写真パネルを展示した。

### (3) 資料利用

本館では、他機関のから展示等のための借用希望に対して所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、26年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査等の一時利用を受け入れており、25年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。26年度の実績は考古資料貸出54件、同一時利用49件（延べ70日間）、写真資料貸出・掲載許可119件、文書・典籍資料貸出3件、同一時利用53件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	海の道むなかた館	17点	田中幸夫資料	「田中幸夫と古代の宗像」展示	26.4.21～6.9
2	奈良文化財研究所	7点	高木遺跡7号土壇墓出土ガラス玉	調査研究	26.5.20～6.20
3	(公財) 古都大宰府保存協会	4点	水城跡出土軒瓦	「水城跡と市民活動-まもる つたえる いかす-」展示	26.6.12～7.31
4	九州国立博物館	33点	大宰府史跡出土木簡「基肆城」等	「古代日本と百済の交流-大宰府・飛鳥そして公州・扶余-」展示	26.12～27.3
5	(公財) 古都大宰府保存協会	4点	大野城跡出土軒丸瓦	大宰府展示館常設展示	26.7.22～10.15
6	吉野ヶ里歴史公園	34点	三雲遺跡出土土器等	「よみがえる邪馬台国「倭人伝の道Ⅱ-邪馬台国の外交拠点 伊都国-」展示	26.9.8～11.20
7	太宰府市文化ふれあい館	21点	水城跡出土須恵器等	「まるごと太宰府歴史展2014」展示	26.8.4～11.7
8	九州国立博物館	1点	番塚古墳出土蟾蜍形飾金具	「古代日本と百済の交流-大宰府・飛鳥そして公州・扶余-」展示	26.12～27.3
9	和歌山県立風土記の丘	6点	居屋敷窯跡出土須恵器	「須恵器誕生-新しい土器は古墳時代をどう変えたか-」展示	26.9.3～12
10	福岡市博物館	28点	西新町遺跡出土遺物	「博物館もよりの砂丘遺跡 西新町・藤崎遺跡展」展示	26.9.30～11.30
11	海の道むなかた館	6点	三雲遺跡出土遺物	「ムナカタ国はあったか～魏志倭人伝の国々から見た宗像～」展示	26.9.30～11.16
12	国立歴史民俗博物館	2点	井上薬師堂遺跡出土木簡	「文字がつなぐ-古代の日本列島と朝鮮半島-」展示	26.10.15～12.14
13	唐津市未蔵館	3点	三雲加賀支石墓出土石鏡	「支石墓から甕棺墓へ」展示	26.9.20～12.19
14	九州国立博物館	3点	金鼓鋳型、磬鋳型	文化交流展示「海の道、アジアの路」展示	26.9.25～27.3.31
15	伊都国歴史博物館	3点	三雲仲田遺跡出土土器	「狗奴国浪漫-熊本・阿蘇の弥生文化-」展示	26.9.20～11.28
16	甘木歴史資料館	18点 一括	砥上上林遺跡出土土器等 塔ノ上遺跡出土製塩土器片	「朝倉の歴史と食文化」展示	26.10.7～11.30
17	直方市中央公民館郷土資料室	30点	内ヶ磯窯跡出土資料	「九州歴史資料館出土品展」に展示	26.11.7～12.1
18	上野原縄文の森	3点	仙道古墳出土盾持人物埴輪等	「古墳時代のかごしま～1,500年の時を越えて～」展示	26.11.11～27.3.31
19	豊前市埋蔵文化財センター	20点	塔田琵琶田遺跡出土遺物	「京築発掘速報展2015」展示	27.1.15～2.16
20	甘木歴史資料館	43点	柿原古墳群出土遺物	「朝倉市の後期・終末期古墳」展示	27.1.20～2.17
21	奈良大学博物館	23点	大野城跡出土刻書木柱等	「発掘された古代国家」展示	27.2.20～6.20
22	大阪府立弥生文化博物館	6点	三雲井原遺跡出土ファイアンス玉等	「卑弥呼・女王創出の現象学」展示	27.4.14～7.24
23	西部瀬戸内古代土器流通検討会	18点	馬場長町遺跡出土企紋型甕破片	調査研究	26.12.26～27.3.31

考古資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	筑前町教育委員会	174箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で利活用	26.4.1～27.3.31
2	国立歴史民俗博物館	7点	横隈山遺跡出土炭化米、広田遺跡出土浅鉢・深鉢	総合展示に展示	26.4.1～27.3.31
3	九州国立博物館	1082点	門田遺跡出土細石刃ほか	文化交流展示室展示等に展示	26.4.1～27.3.31
4	岩手県立博物館	4点	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究	26.4.1～27.3.31
5	福岡市博物館	2点	西新町遺跡出土土器	常設展示	26.4.1～27.3.31
6	筑紫野市歴史博物館	108点	剣塚遺跡・剣塚3号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土品	常設展示	26.4.1～27.3.31
7	直方市教育委員会	72点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示	26.4.1～27.3.31
8	古賀市教育委員会	19点	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山8号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示	26.4.1～27.3.31
9	求菩提資料館	10点	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬莱鏡	常設展示	26.4.1～27.3.31
10	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門窯跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗博物館等で利活用	26.4.1～27.3.31

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
11	春日市教育委員会	6点	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示	26.4.1～27.3.31
12	基山町教育委員会	3点	大宰府政庁跡出土軒丸瓦・軒平瓦	基山町歴史民俗資料館展示	26.4.1～27.3.31
13	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺跡・辻畑遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・戸原堀ノ内遺跡・井山古墳群出土資料	展示等利活用	26.4.1～27.3.31
14	香春町教育委員会	84点	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土遺物	町民センター歴史資料室展示	26.4.1～27.3.31
15	(公財)古都大宰府保存協会	29点	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示	26.4.1～27.3.31
16	みやこ町教育委員会	23点	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土品	みやこ町歴史民俗博物館常設展示	26.4.1～27.3.31
17	八女市教育委員会	1点	真浄寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史資料館常設展示	26.4.1～27.3.31
18	みやま市教育委員会	31点	上枇杷遺跡・権現塚南遺跡・大江北遺跡・三船山遺跡・金栗遺跡出土資料	みやま市歴史資料館展示	26.4.1～27.3.31
19	須恵町教育委員会	419点	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示	26.4.1～27.3.31
20	埼玉県立歴史と民俗の博物館	4点	横隈山遺跡出土壺・甕、永岡遺跡出土甕棺上下甕	常設展示	26.9.1～27.8.31
21	伊都国歴史博物館	173点	三雲南小路遺跡出土資料他	展示等利活用	26.4.1～27.3.31
22	栃木県立博物館	2点	門田遺跡、甕棺上下甕	常設展示	26.10.1～27.9.30
23	みやま市教育委員会	17点	清水山遺跡群礫石器、坂田中園遺跡縄文土器、権現塚遺跡群弥生土器、九折大塚古墳出土土輪	みやま市歴史資料館展示	26.4.1～27.3.31
24	甘木歴史資料館	27件	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・治部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡・菩提寺古墳群・仙道古墳・真奈板遺跡・観音塚古墳・湯の隈古墳出土品	常設展示	26.4.1～27.3.31
25	老司公民館	6点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示	26.4.1～27.3.31
26	篠栗町教育委員会	117点	高田遺跡・トヲノ尾遺跡・塚元遺跡出土遺物	篠栗町歴史民俗資料室展示	26.4.1～27.3.31
27	京都国立博物館	1点	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用	27.1.1～29.12.31
28	京都国立博物館	4点	甕棺	展示等利活用	25.7.1～28.6.30
29	粕屋総合庁舎	20点	箱崎遺跡出土品	展示ケース展示	26.4.1～27.3.31
30	福岡県立筑豊高等学校	250点	旧福岡県立筑豊工業高等学校所蔵関係資料ほか	資料室展示	26.4.1～27.3.31
31	国立羅州文化財研究所	1点	道場山遺跡甕棺	常設展示	26.2.2～29.2.2

考古資料等の一時利用（資料見学等）

番号	利用者（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	兵庫埋蔵銭調査会	1式	真奈板遺跡出土銭	出土銭調査	26.4.17
2	嘉麻市教育委員会	一式	花聳1号墳出土鉄器	調査研究	26.4.25
3	九州国立博物館	1点	金鼓鏝型	展示に伴う資料調査	26.4.30
4	福岡市埋蔵文化財センター	3箱	観世音寺跡出土遺物	調査研究	26.5.20
5	福岡市博物館	一式	西新町遺跡出土遺物	「西新町・藤崎遺跡展」に伴う資料調査	26.6.11
6	個人	5点	奴山正園古墳出土石製模造品・須恵器・土師器	論文作成	26.6.25
7	個人	一式	番塚古墳出土馬具	調査研究	26.7.7
8	個人	1点	高森城跡出土犬型土製品	論文作成	26.7.31
9	個人	2点	中原狐塚古墳出土三果環頭大刀把頭、筒金具片	論文作成	26.7.30
10	個人	一式	井ノ浦古墳出土短甲破片、挂甲、馬具	論文作成	26.8.11～12
11	個人	1点	正福寺遺跡出土斧	調査研究	26.8.16
12	個人	33点	兎ギ板1号墳、山田沖1号墳、高崎2号墳出土土器	調査研究	26.8.22
13	個人	一式	石崎曲り田遺跡出土遺物	論文作成	26.9.1～4
14	個人	5点	別所次郎丸遺跡出土土器	調査研究	26.9.10
15	個人	1点	番塚古墳出土大刀	調査研究	26.9.19
16	RKB毎日放送コンテンツ制作部	8点	水城跡出土「水城」銘墨書土器等	番組「新九州遺産」の水城の説明に使用するため撮影	26.9.25
17	上野原縄文の森	1点	仙道古墳盾持人物埴輪	企画展示準備の資料調査	26.10.7
18	上野原縄文の森	1点	若八幡宮古墳出土三角縁神獸鏡レブリカ	企画展示準備の資料調査（貸出先で調査）	26.10.7
19	個人	16箱	番塚古墳出土遺物	調査研究	26.10.8
20	長崎県文化振興課	1点	辻田遺跡木製2号琴木片	調査研究	26.10.16
21	明治大学黒耀石研究センター	一式	クリナラ遺跡等出土磨製石斧	調査研究	26.10.22
22	個人	92点	石崎曲り田遺跡等出土土器	論文作成	26.10.26
23	個人	135点	石崎曲り田遺跡等出土土器	論文作成	26.10.31
24	個人	1箱	今寺窯跡・日輪寺窯跡出土遺物	調査研究	26.11.7
25	海の道むなかた館	1点	井手ノ上古墳出土金銅製鈴	展示に伴う資料調査	26.11.13
26	個人	一式	大宰府政庁、大野城跡出土百済系単弁軒丸瓦類	調査研究	26.10.9
27	個人	一式	大宰府政庁、大野城跡出土百済系単弁軒丸瓦類	調査研究	26.11.14
28	西部瀬戸内古代土器流通検討会	一式	馬場長町遺跡出土土師器甕	調査研究	26.11.26

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
29	小郡市教育委員会	24点	延永ヤヨミ園遺跡Ⅲ区出土土馬等	報告書作成	26.11.28
30	個人	一式	流末溝田遺跡出土縄文土器	調査研究	26.11.30
31	個人	4点	吉ヶ浦遺跡出土鉄鏃	調査研究	26.12.3
32	個人	一式	大宰府跡出土文字瓦	調査研究	26.12.4～5
33	個人	一式	安武深田遺跡出土石庖丁・石斧	比較研究	27.1.6
34	韓国金海博物館	一式	勝浦井ノ浦古墳・番塚古墳・大石岡ノ上古墳出土小札	展示に伴う資料調査	27.1.21
35	飯塚市教育委員会文化財保護課	一式	池田横穴墓出土品	報告書作成	27.1.23
36	個人	一式	観世音寺跡出土青磁等	調査研究	27.1.28
37	個人	73点	西新町遺跡出土遺物	調査研究	27.2.10
38	個人	一式	ハサコの宮古墳・津屋崎古墳出土土玉	調査研究	27.2.12
39	大阪歴史博物館	20点	ハサコの宮2号墳出土陶質土器等	展示に伴う資料調査	27.2.26
40	個人	20点	大宰府史跡出土羽口・埴埴	調査研究	27.3.1
41	個人	3点	延永ヤヨミ園遺跡出土墨書土器	調査研究(墨書土器の集成)	27.3.3
42	海の道むなかた館	3点	八隈1号墳出土銅鈴等	展示に伴う資料調査	27.3.4
43	福岡市博物館	一式	西新町遺跡出土土器・ガラス小玉銕型、須玖遺跡出土遺物	展示に伴う資料調査	27.3.17
44	個人	2点	石町遺跡出土土器・土偶	調査研究	27.3.17
45	筑前町教育委員会	1点	東小田七板遺跡出土鉄戈	資料確認	27.3.18
46	海の道むなかた館	3点	八隈1号墳出土銅鈴等	展示に伴う資料調査	27.3.18
47	個人	一式	汐井掛遺跡等出土玉類・ガラス玉	調査研究	27.3.17～18
48	国立歴史民俗博物館	7点	塚堂遺跡出土土器	展示に伴う資料調査	27.3.19
49	個人	20点	藤の尾垣添遺跡出土大型甕棺	論文作成	27.3.24

#### 文書・典籍資料の貸出一覧(長期)

番号	貸出先(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	筑豊高等学校	220点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	26.4.1～27.3.1
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	26.4.1～27.3.31

#### 文書・典籍資料の貸出一覧(短期)

番号	貸出先(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	糸島市立伊都国歴史博物館	3点	地図・絵図史料	冬季企画展「描かれた糸島」に展示	27.1.15～27.3.31

#### 文書・典籍資料等の一時利用(資料見学等)

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	ユタ系図協会	652点	山北村庄屋文書・中尾文書	資料保存、研究用撮影	26.4.1～26.5.31
2	柳川市史編さん係	556点	永江文書・野田文書	市史編さん	26.4.11～27.2.13
3	個人	5点	花瀬村庄屋文書	調査研究	26.4.23
4	個人	11点	本田(誠)文書	調査研究	26.4.30
5	個人	34点	電気事業要覧(紙焼)・福岡日日新聞(紙焼)	史料集編さん	26.5.1～27.1.27
6	福岡市文化財保護課	30点	松村(ム)文書・ジョーキョウ文書	調査研究	26.5.2
7	九州大学附属図書館	11点	林(美)文書・福岡藩関係史料・「糟屋郡史」編纂資料・宮川文書	調査研究	26.5.4～26.9.20
8	個人	1点	山北村庄屋文書	調査研究	26.5.14
9	個人	1点	地図	調査研究	26.5.22
10	糸栗市教育委員会社会教育課	1点	福岡藩関係史料	調査研究	26.6.3
11	福岡市総合図書館文学・文書課	1点	西村(喜)文書(紙焼)	調査研究	26.6.5
12	ハシモト写真工房	8点	永江文書	図書口絵に利用	26.6.13
13	個人	62点	安高文書・福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	26.6.17～26.7.29
14	個人	12点	福岡日日新聞	調査研究	26.6.17
15	(株)ブランニングアドウ	2点	高島文書	図書掲載	26.6.18
16	個人	291点	熊谷文書・永江文書	調査研究	26.7.11～26.9.20
17	個人	1点	小代文書(紙焼)	調査研究	26.7.13
18	福岡市史編さん室	2点	永江文書	市史編さん	26.7.15
19	九州旅客鉄道株式会社建設工事部施設課	6点	太田静六資料	調査研究	26.7.25
20	個人	16点	中村(武)文書(紙焼)	調査研究	26.8.1
21	個人	2点	鎌水文書	調査研究	26.8.16
22	福岡市博物館	3点	富田文書(紙焼)・吉田(光)文書(紙焼)・原(一)文書(紙焼)	市史編さんの事前調査	26.8.17
23	個人	12点	金光文書(マイクロ)・地域史収集資料・福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	26.8.22～26.9.7
24	個人	40点	野田文書・野田卯太郎日記	調査研究	26.8.24～26.9.20
25	個人	13点	野田文書・永江文書	市史執筆	26.8.28
26	個人	1点	福岡藩関係史料	調査研究	26.9.15
27	朝倉市教育委員会文化課	1点	林(美)文書	調査研究	26.9.17
28	個人	100点	貝原収蔵文書・福岡県酒造組合資料・絵葉書	調査研究	26.9.25
29	個人	1点	吉田文書(紙焼)	福津市ボランティア研修	26.9.26
30	個人	12点	足立文書	調査研究	26.10.10

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
31	個人	10点	福岡日日新聞(紙焼)・福岡県統計書(紙焼)	調査研究	26.10.19～26.11.3
32	個人	37点	福岡県会議事録(紙焼)・福岡県統計表(紙焼)・共武政表(紙焼)	調査研究	26.10.19
33	個人	12点	林(美)文書	調査研究	26.10.31
34	個人	24点	伊東尾四郎文書・福岡県統計書(紙焼)・福岡日日新聞(紙焼)	町史執筆	26.11.3～26.11.5
35	個人	5点	石橋(八)文書	調査研究	26.12.3
36	個人	1点	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	26.12.3
37	個人	52点	門司新市街図・地図・絵葉書	調査研究	26.12.12
38	個人	2点	藤井文書・福岡藩関係史料	調査研究	26.12.13
39	宮内庁書陵部	3点	野田文書	調査研究	26.12.21
40	個人	26点	ジョーキューウ史料(紙焼)・福岡日日新聞(紙焼)・共武政表(紙焼)・熊谷文書	調査研究	26.12.23～27.3.1
41	個人	15点	福岡日日新聞(紙焼)・九州日報(紙焼)・福陵新報(紙焼)	調査研究	27.1.6
42	個人	15点	野田文書・永江文書	調査研究	27.1.16
43	個人	7点	野田文書・福岡日日新聞(紙焼)	先祖調査	27.1.17
44	個人	1点	野田文書目録	調査研究	27.1.21
45	個人	1点	福岡藩関係史料	調査研究	27.1.22
46	個人	22点	伊熊文書・福岡藩関係史料・小川文書	調査研究	27.2.1
47	個人	10点	「糟屋郡史」編纂資料・中尾文書・福岡藩関係史料	調査研究	27.2.4
48	個人	1点	花瀬村庄屋文書	町史の執筆	27.2.12
49	個人	80点	花瀬村庄屋文書	調査研究	27.2.21
50	個人	1点	山北村庄屋文書(紙焼)	調査研究	27.2.24
51	福岡県商工部観光・物産振興課	20点	野田大塊文書・永江文書	三池炭鉱CG再現プロジェクトの参考	27.3.8
52	沖縄県知事公室広報交流課	2点	後藤(健)所蔵史料(紙焼)、福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	27.3.23
53	個人	31点	林(美)文書・福岡藩関係史料・小川家文書	調査研究	27.3.28

写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
1	KADOKAWA 中経出版	7点	大宰府関連写真	新人物文庫『西鉄沿線謎解き散歩』掲載	許可のみ
2	株式会社淡交社	1点	観世音寺出土土器式軒瓦写真	『一瓦一説 瓦からみる日本古代史』掲載	デジタルデータ
3	株式会社洋泉社	2点	船原古墳出土品写真	『歴史 REAL 古代天皇陵と巨大古墳の謎』掲載	許可のみ
4	株式会社碧水社	9点	大宰府、大野城写真	『日本の城』81号掲載	許可のみ
5	株式会社吉川弘文館	1点	観世音寺出土宝亀11年具注曆断簡赤外線写真	細井浩志『日本史を学ぶための〈古代の暦〉入門』掲載	デジタルデータ
6	福岡県立筑紫丘高等学校	11点	装飾古墳パネル	文化祭における郷土研究部展示	パネル
7	個人	7点	九州歴史資料館写真	『歴史地理教育』821号掲載	許可のみ
8	(公財)古都大宰府保存協会	10点	木樋接合部分他写真	企画展「水城跡と市民活動一まもる つたえる いかすー」展示パネル掲載	デジタルデータ
9	大宰府市	1点	自然地形を利用した羅城の復元図	平成26年度版『市民便利帳』掲載	許可のみ
10	西日本新聞筑紫支局	5点	水城の復元図他写真	『西日本新聞』掲載	デジタルデータ
11	IVS テレビ制作株式会社	8点	水城木樋の断面他写真	『日本テレビ THE! 鉄腕! DASH!!』放映	デジタルデータ
12	筑紫野市歴史博物館	2点	柚須原の木造聖観音坐像他写真	企画展「南北朝時代の筑紫野～板碑の背景」展示パネル、展示解説書掲載	デジタルデータ
13	有限会社オフィス・イデオム	3点	大宰府政庁跡(航空写真)他写真	『学研まんが NEW 日本の歴史 別巻 文化遺産学習事典』掲載	デジタルデータ
14	株式会社TVQ九州放送	2点	春日市門田遺跡全景他写真	TVQ「土曜の夜は! おとななテレビ」放映	デジタルデータ
15	西日本新聞筑紫支局	3点	大宰府等鳥瞰図他写真	『西日本新聞』掲載	デジタルデータ
16	大阪府立近つ飛鳥博物館	2点	西新町遺跡出土朝鮮半島系土器他写真	平成26年度夏季企画展小冊子、展示パネル掲載	デジタルデータ
17	有限会社海鳥社	45点	天台寺跡出土軒丸瓦・軒平瓦他写真	『アクロス福岡文化誌8 福岡県の仏像』掲載	デジタルデータ
18	株式会社新泉社	1点	鶴見山古墳出土人物形石製品写真	柳沢一男著 シリーズ「遺跡を学ぶ」094『岩戸山古墳』掲載	デジタルデータ
19	福岡市博物館	3点	大宰府史跡第4次蔵司西地区出土 出拳木簡写真	企画展示「木簡からみる古代福岡の暮らし」展示パネル掲載	デジタルデータ
20	株式会社ベストセラーズ	2点	徳永川ノ上遺跡出土鉄剣他写真	『歴史人別冊 古代史の謎』掲載	許可のみ
21	久山町教育委員会	1点	白山神社経塚出土遺物写真	パネル展「私たちの首羅山遺跡展」展示パネル掲載	デジタルデータ
22	九州国立博物館	19点	木簡「基肆城」大宰府跡出土他写真	特別展「古代日本と百済の交流一大宰府・飛鳥そして公州・扶余ー」図録・広報関係・事業用報告書掲載	デジタルデータ
23	株式会社悠工房	1点	水城全景写真	文部科学省検定教科書『新しい社会 歴史』(通常版)および『新しい社会 歴史』(拡大版)掲載	許可のみ
24	和歌山県立紀伊風土記の丘	6点	須恵器甕体部 居屋敷窯跡出土他写真	平成26年度特別展「須恵器誕生ー新しい土器は古墳時代をどう変えたかー」展示、図録掲載	撮影・掲載許可
25	(公財)古都大宰府保存協会	2点	水城西門発掘調査風景他写真	写真展「まもりつがれた水城跡の四季」展示	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
26	太宰府市教育委員会	1点	水城欠堤部石敷遺構(4次調査)写真	『広報だざいふ』平成26年9月1日号掲載	デジタルデータ
27	大野城市教育委員会	1点	『靖方遡源』写真	『広報大野城』8月15日号掲載	許可のみ
28	忘羊社	42点	内ヶ磯窯跡実測図他写真	小山亘著『織部高取の謎を解く』掲載	許可のみ
29	九州旅客鉄道株式会社	65点	太田静六資料 博多駅写真、門司港駅写真	門司港駅保存修理事業に関する調査研究に使用	デジタルデータ
30	福岡市博物館	8点	清水寺蔵 木造十一面観音菩薩坐像他写真	特別展「九州仏 ―1300年の祈りとかたち―」図録掲載	デジタルデータ
31	株式会社平凡社	1点	重要文化財 福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土土器写真	『別冊太陽 日本美術史入門』掲載	許可のみ
32	太宰府市教育委員会	2点	第4次調査 SB001 瓦積み基壇近景写真 第4次調査 掘立柱建物SB010(東から)写真	「般若寺跡」の説明板掲載	デジタルデータ
33	株式会社雄山閣	4点	筑前国分寺塔跡他写真	『季刊考古学』第129号掲載	デジタルデータ
34	国立歴史民俗博物館	2点	井上薬師堂遺跡出土2・4号木簡赤外線写真	平成26年度国際企画展示「文字がつなぐ―古代の日本列島と朝鮮半島―」図録掲載	デジタルデータ
35	株式会社ニューサイエンス社	16点	大宰府政庁跡正殿地区調査風景他写真	江口桂編『古代官衙』(考古調査ハンドブックシリーズ)掲載	デジタルデータ
36	鹿児島県歴史資料センター黎明館	6点	大宰府史跡不丁地区出土木簡「奄美嶋」写真 大宰府史跡不丁地区出土木簡「伊藍嶋」写真	企画特別展「南からみる中世の世界～海に結ばれた琉球列島と南九州～」展示パネル、図録掲載	デジタルデータ
37	みやこ町歴史民俗博物館	15点	皆見大塚古墳発掘調査写真、図版	皆見大塚古墳史跡公園整備に伴う、周知用文化財解説板掲載	許可のみ
38	行橋市教育委員会	1点	延永ヤヨミ園遺跡出土「津」墨書土器赤外線写真 延永ヤヨミ園遺跡V-la・b区航空写真	『市報ゆくはし』9月1日号掲載	デジタルデータ
39	八女市教育委員会	2点	本6号墳(真浄寺2号墳)出土1・2号短甲写真	岩戸山歴史文化交流館(仮称)常設展示室展示パネル掲載	デジタルデータ
40	九州国立博物館	6点	木簡「兵士」赤外線写真他写真	特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶余―」図録・広報関係・事業用報告書掲載	* C D - R カラーポジフィルム*
41	春日市教育委員会	10点	水城跡全景航空写真他写真	平成26年度考古企画展「春日の小水城」展示	デジタルデータ
42	長崎県埋蔵文化財センター	3点	畑田遺跡支石墓写真	壱岐市一之国博物館 魏志倭人伝のクニグニ・ネットワーク 支石墓写真展における展示	許可のみ
43	株式会社はる制作室	3点	西新町遺跡出土朝鮮半島系土器写真	瀧音能之監修『邪馬台国と卑弥呼』掲載	許可のみ
44	株式会社TVQ九州放送	1点	相田炭坑写真	TVQ「土曜の夜は!おとななテレビ」放映	デジタルデータ
45	朝日放送株式会社	1点	老司I式軒丸瓦 観世音寺出土写真	「ナイト in ナイト木曜日「ビーバップ!ハイヒール」」放映	デジタルデータ
46	株式会社碧水社	3点	大野城上空から基肆城を望む(空撮)写真他図	『週刊日本の城』109号大宰府復元CGイラスト制作資料	デジタルデータ
47	栃木県立博物館	1点	門田遺跡出土 甕棺写真	栃木県立博物館常設展示図録掲載、展示室内「栃木県立博物館展示情報提供システム」使用	許可のみ
48	久留米市教育委員会	3点	日永遺跡銅矛・広形銅戈出土状況他写真	「第39回くるめの考古資料展」解説パネル掲載	デジタルデータ
49	太宰府市	3点	博多大宰府図屏風写真	「さいふまいり」に関する説明板掲載	デジタルデータ
50	大野城市教育委員会	6点	水城復元図他写真	特別史跡水城跡西側解説板掲載	デジタルデータ
51	(公財)古都大宰府保存協会	2点	水城西門発掘調査風景他写真	太宰府市西校区合同文化祭「第5回くくりん祭」における写真展「まもりつがれた水城跡の四季」展示	許可のみ
52	(公財)鹿児島文化振興財団上野原縄文の森	2点	筑前町仙道古墳 盾持人物埴輪写真	第41回企画展「古墳時代のかごしま ～1,500年の時を越えて～」におけるチラシ・ポスター掲載、広報及びパネル等の作成・展示	撮影・掲載許可
53	株式会社西日本新聞社	2点	墨書土器「水城」写真 重要文化財 鬼瓦 大宰府跡出土	九州国立博物館特別展「古代日本と百済の交流展」オリジナルグッズ使用	デジタルデータ
54	日本遺跡学会	3点	大宰府政庁の今昔他写真	『遺跡学の宇宙―戦後黎明期を築いた13人の記録』掲載	許可のみ
55	八女市教育委員会	1点	日本書紀版本 田中幸夫氏寄贈資料写真	岩戸山歴史文化交流館(仮称)常設展示室展示パネル掲載	撮影・掲載許可
56	有限会社海鳥社	5点	朝倉市外之隈1号墳出土 画文帯神獸鏡等写真	吉村靖徳著『ふくおか古墳日和』掲載	許可のみ
57	株式会社光文書院	1点	春日市辻田遺跡出土 鉄斧写真	『社会科資料集6年』掲載	許可のみ
58	一般財団法人九州大学出版会	9点	麻生商店 永江純一宛書簡「監督報酬送付通知」他写真	『麻生太吉日記 第四巻』掲載	デジタルデータ
59	個人	3点	自然地形を利用した羅城の復元図他写真	『地質と調査』平成26年12月号(通巻141号)掲載	許可のみ
60	(公財)鹿児島文化振興財団上野原縄文の森	3点	若八幡宮古墳写真	第41回企画展「古墳時代のかごしま ～1,500年の時を越えて～」におけるチラシ・ポスター掲載、広報及びパネル等の作成・展示	デジタルデータ
61	飯塚市教育委員会	1点	内野御茶屋絵図写真	飯塚市文化財調査報告書第48集「内野御茶屋跡(概要報告書)」掲載	デジタルデータ
62	直方市教育委員会	1点	内ヶ磯窯跡出土「角皿」写真	『市報のおがた』11月1日号掲載	撮影・掲載許可
63	(公財)古都大宰府保存協会	21点	大宰府政庁跡I期遺構図他写真	大宰府展示館 常設展示使用	デジタルデータ
64	産経新聞九州総局	2点	恵子若山遺跡航空写真	『産経新聞』平成26年11月28日付九州・山口版掲載	許可のみ
65	株式会社近衛ロンド	2点	大宰府周辺航空写真・大宰府政庁模型写真	『平安の大事典』掲載	許可のみ
66	春日市教育委員会	4点	水城東門跡全景写真	春日市文化財ガイドブック『昔を知ろう 今を知ろう なるほど!かすがの文化財』掲載	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
67	個人	1点	勝浦井ノ浦古墳出土鉄地金銅装小札実測図	『五條猫塚古墳の研究 考察編』掲載	許可のみ
68	株式会社碧水社	2点	上空から見た大野城と水城他写真	『週刊 日本の城 109号 大宰府・大野城跡探訪』掲載	デジタルデータ
69	RKB 毎日放送	1点	敷粗染出土状況写真	「新九州遺産（仮）遙かなり、遠のみかど」（平成27年1月2日午前7時から）放映	デジタルデータ
70	春日市教育委員会	1点	門田遺跡出土爪形土器写真	春日市ウェブサイト掲載	許可のみ
71	凸版印刷株式会社	1点	天保3年（1832）に久留米藩士・松岡辰方が製作した木版図	九州国立博物館文化交流展示室映像制作及び、同館展示映像をまとめた装飾古墳に関する書籍掲載	許可のみ
72	株式会社吉川弘文館	7点	行橋市延永ヤヨミ園遺跡出土郡符木簡赤外線写真他写真	館野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流・情報』掲載	デジタルデータ
73	木簡学会	21点	観世音寺北面築地推定地出土木簡他写真	『木簡研究』第36号掲載	デジタルデータ
74	個人	26点	製錬炉等写真他写真	日本鉄鋼協会編『遙かなる鉄の歴史』（1）掲載	許可のみ
75	久山町教育委員会	1点	白山神社経塚出土遺物写真	『ひさやまの歴史』掲載	デジタルデータ
76	株式会社かみゆ	3点	立花山城写真	『日本の山城 100名城（仮）』掲載	デジタルデータ
77	基山町教育委員会	1点	大宰府史跡不丁地区出土木簡「基肆城」写真	第6回町史編さん事業成果展展示	デジタルデータ
78	朝日新聞出版	1点	水城遠景、上空から写真	文化庁編『日本発掘』掲載	デジタルデータ
79	大野城市教育委員会	6点	水城復元図他写真	『大野城市の文化財』第45集掲載	デジタルデータ
80	（公財）九州文化協会	3点	大宰府史跡出土文様・拓影	『平成26年度九州芸術祭文学賞作品集45号』掲載	許可のみ
81	株式会社TVQ九州放送	3点	水城復元図他写真	TVQ「土曜の夜は！おとななテレビ」放映	デジタルデータ
82	福岡県大阪事務所	1点	珍敷塚古墳壁画写真	歴史観光パンフレット掲載	デジタルデータ
83	株式会社TVQ九州放送	1点	博多太宰府図屏風写真	TVQ「土曜の夜は！おとななテレビ」放映	デジタルデータ
84	株式会社雄山閣	2点	西新町遺跡第12次81号住居跡カマド他写真	『季刊考古学』第131号特集 古代「竪穴建物」研究の可能性 口絵掲載	デジタルデータ
85	（公財）三徳庵	1点	白山神社経塚出土遺物写真	『茶道の研究』平成27年4月号（通巻713号）「古今の名陶に出会う」掲載	許可のみ
86	株式会社洋泉社	1点	池の上6号墳出土響写真	洋泉社MOOK『歴史REAL 古代史の謎』掲載	デジタルデータ
87	奈良大学博物館	20点	日本書紀版本 田中幸夫氏寄贈資料他写真	企画展「発掘された古代国家展」展示パネル、図録掲載	デジタルデータ
88	大阪府立弥生文化博物館	1点	東小田峯遺跡10号甕棺墓出土状況写真	常設展示展示解説パネル掲載	デジタルデータ
89	個人	1点	太祖神社所蔵宋風獅子一對写真	『服部英雄先生退官記念文集』掲載	デジタルデータ
90	久山町教育委員会	1点	白山神社経塚出土遺物写真	『国史跡首羅山遺跡整備基本計画書』掲載	許可のみ
91	太宰府市文化ふれあい館	12点	四王寺山全景写真他写真	「四王寺山拓本展」展示、展覧会関連講座に係るポスター・チラシ及び各種広報誌・ホームページ等掲載	デジタルデータ
92	株式会社G.B.	4点	福岡県指定文化財 男女神坐像（国玉神社蔵）写真 福岡県指定文化財 十一面観音懸仏（蔵持山神社蔵）写真	『週刊 日本の神社 第70号 英彦山神宮・竈門神社』掲載	デジタルデータ
93	株式会社ニューサイエンス社	1点	石崎曲り田遺跡早期土器集合写真	佐藤由紀男編『弥生土器』（考古調査ハンドブックシリーズ）掲載	デジタルデータ
94	JICA 横浜海外移住資料館	4点	「福岡県人ハワイ在留記念写真帳」他写真	「移住資料所蔵機関情報」サイト掲載	許可のみ
95	（一社）西日本文化協会	1点	「修猷館絵図」写真	石瀧豊美「二つの藩校一修猷館と甘棠館一」『西日本文化』8月号（第470号）掲載	許可のみ
96	株式会社プランニングアトウ	1点	「萬秘傳書」写真	『城下町に銘菓あり』（仮題）「福岡城」掲載	デジタルデータ
97	個人	3点	「野田卯太郎文書」R3、R4、R6	九州製鋼株式会社の展開を研究するため、国立国会図書館蔵マイクロフィルム各リール全コマ複写	許可のみ
98	宗像市教育委員会	19点	縄文土器破片一括他写真	特別展「田中幸夫と古代の宗像」展示及び図録等掲載	デジタルデータ
99	（公財）古都大宰府保存協会	1点	大野城太宰府口城門（第I期）復元イラスト	大宰府展示館 常設展示使用	デジタルデータ
100	吉野ヶ里公園管理センター	15点	曲り田遺跡航空写真他写真	企画展『よみがえる邪馬台国』『倭人伝の道II 邪馬台国の外交拠点 伊都国一』リーフレット、展示パネル掲載	デジタルデータ
101	太宰府市文化ふれあい館	7点	東門の木樋（取水口）他写真	企画展「まるごと大宰府歴史展2014」展示パネル、図録掲載	デジタルデータ
102	福岡市博物館	5点	西新町遺跡12次調査地点遠景（南から）他写真	企画展示「博物館もよりの砂丘遺跡—西新町・藤崎遺跡」展示、展示解説リーフレット掲載	デジタルデータ
103	宗像市教育委員会	3点	三雲遺跡出土遺物写真	特別展「ムナカタ国はあったか ～魏志倭人伝の国々からみた宗像～」展示、図録・パネル・広報等掲載	デジタルデータ
104	唐津市教育委員会・（公財）唐津市文化事業団	2点	三雲加賀石支石墓写真	唐津の歴史文化企画展「支石墓から甕棺墓へ」展示、印刷物掲載	デジタルデータ
105	伊都国歴史博物館	2点	三雲仲田 I -16 3号不整形土壙 器台出土状況他写真	「匈奴国浪漫—熊本・阿蘇の弥生文化—」展展示、展示図録、パネル等掲載	デジタルデータ
106	甘木歴史資料館	2点	紙上上林遺跡出土状況他写真	「朝倉の歴史と食文化」展展示、展示図録、パネル等掲載	デジタルデータ
107	甘木歴史資料館	25点	柿原遺跡周辺、D・L地区全景他写真	発掘調査速報展「朝倉市の後期・終末期古墳」展示、展示解説リーフレット掲載	デジタルデータ
108	大阪府立弥生文化博物館	6点	三雲・井原（三雲仲田）遺跡出土ファイアンス玉他写真	平成27年度春季特別展「卑弥呼—女王創出の現象学」展示、展示解説リーフレット掲載	デジタルデータ

## (4) 学習支援・博学連携

### ◎学習支援活動

#### ○来館学習

26年度も、小学6年生、中学1年生が学習する時期に合わせて4～7月に開催する企画展「きゅうおにとタイムトラベル」に展示されている、福岡県内の遺跡から出土した資料を教材として、学習指導要領のねらいに迫ることができるよう、来館学習を展開した。縄文・弥生時代の道具を比較し、それぞれの特色を読み取れるよう子どもたちに問いを投げかけ視点を示してから見学をさせた。長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、農耕が始まったころの人々の生活や社会の様子分かるように、道具



スケールによる時間の「見える化」

を通してそれらを使っていた人々の暮らしに目を向けさせた。狩猟や採集による生活がどれほど長い期間行われていたのかを実感できるよう、スケールを提示し「見える化」する工夫も取り入れた。また奈良時代の大宰府の様子についての展示からは、天皇中心の政治が自分たちのくらす地域にも及んでいたことを捉えられるよう展示資料と教科書で学習することと結びつけて説明した。来館学習用のワークシートを作成して配布し、気づいたことや考えを記入できるようにした。

第1展示室では、子ども達が個々に「お気に入り」の資料を選ぶ活動を行った。子ども達は、関心をもったものについて質問し、多くの展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんな物なのかメモを取っていた。

第4展示室では、8つの遺構展示それぞれにかかわる当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。さらに、中庭では、取り上げた遺物を科学を駆使して分析し、丁寧に修復・整理し、記録する作業についての説明に、興味深そうに目を輝かせながら見聞きする姿が見られた。

小郡市埋蔵文化財調査センターとの連携を図り、25年度までと同様、市内の小学校には両施設を活用してもらった。

企画展会期後も修学旅行や総合的な学習の時間などでの学校団体による利用があった。

学校団体関係者の来館者総数は以下のとおりである。

来館日	学校名・学年	来館人数(名)
4月11日(金)	小郡市立小郡小学校 6年生	115
4月17日(木)	朝倉市立甘木小学校 6年生	94
4月23日(水)	小郡市立大原小学校 6年生	55
5月1日(木)	小郡市立味坂小学校 6年生	21
5月14日(水)	小郡市立東野小学校 6年生	54
5月20日(火)	のぞみが丘小学校 6年生	190
6月4日(水)	大野城市立大野東中学校 2年生	163
6月12日(木)	小郡市立御原小学校 6年生	22

7月16日(水)	久留米宮ノ陣小学校 6年生	98
10月21日(火)	須磨学園中学校(兵庫県) 2年生	130
来館学習者総数		942

### ○中学校職場体験

26年度も、6校31名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。館内の見学、土器の洗浄・復元、拓本、図書整理作業など博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃などいろいろな業務を体験することを通して、多くの人の様々な仕事によって館全体の事業が成り立つことや共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の在り方・生き方を考えさせることを目指した。



中学校職場体験(土器展開・接合)

実施日と参加学校団体は以下のとおりである。

期 間	学校名	参加人数(名)
8月5日(火)	小郡市立三国中学校 2年生	4
9月11日(木)～12日(金)	大野城市大和利中学校 2年生	5
1月20日(火)～22日(木)	大野城市大野東中学校 2年生	6
1月27日(火)～28日(水)	太宰府市学業院中学校 2年生	4
1月29日(木)～30日(金)	筑紫野市二日市中学校 2年生	6
2月24日(火)～25日(水)	筑紫野市筑紫野南中学校 2年生	4
参加者合計		31

### ○高校生インターンシップ

26年度は、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁高校生インターンシップ」を2回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指した。高校生にとっては、自己の生き方、在り方を考える時間となったと考える。



高校生インターンシップ(拓本)

	午 前	午 後
1日目	開講式、オリエンテーション、館内見学	業務内容説明(総務室・警備・空調)、図書整理
2日目	図書整理、清掃業務	遺物整理、受付業務、イベント・講座会場設営
3日目	古代体験、討議、報告書作成、閉講式	

	学 校 名	参加数(名)
7月23日(水)～25日(金)	福岡中央(2)、小郡(2)、八女(1)、朝倉東(1)、輝翔館(2)	8
8月20日(木)～22日(金)	福岡中央(2)、城南(1)、福岡工業(1)、糸島(1)、明善(1)、八女(2)	8
7月30日(水)～8月1日(金)	三井高校(1)	1

### ○出前授業

24・25年度に引き続き、太宰府市立太宰府中学校から2・3年生の「総合的な学習の時間～歴史探訪コース～」への出前学習の依頼があり、九州国立博物館と連携して行った。初回ガイダンスを含め、大宰府に関連する内容を中心として、様々な授業を行った。9回中6回の出前授業に、延べ11名の職員を派遣した。27年度以降は太宰府市教育委員会とも連携する予定である。



出前授業

各回の内容は以下のとおりである。

回 数	内 容	場 所
第1回	ガイダンス(九州国立博物館と)	太宰府中学校
第2回	大宰府の歴史と観世音寺	観世音寺宝蔵
第3回	大宰府の歴史と万葉集	太宰府中学校
第7回	大宰府政庁跡の発掘の歴史	太宰府中学校
第8回	古代の瓦と拓本体験	太宰府中学校
第9回	九歴の古代体験	太宰府中学校

### ○フレッシュキャンプ事業

福岡県社会教育主事等研修会のグループ研修の取組で、福岡県立少年自然の家「玄海の家」を主体に、福岡県立英彦山青年の家、福岡県社会教育総合センター、国立夜須高原青少年自然の家の4施設を会場に、不登校の中学生を対象とした復帰支援事業の「フレッシュキャンプ」が行われている。26年度、当館指導主事も本グループ研修の一員として企画・運営に携わった。12月9日(火)～12月11日(木)に国立夜須青少年自然の家を会場に行われた第4回目には、当館の土器整理および図書整理をプログラムに取り入れ、博物館の仕事を体験してもらった。人と接することを苦手とする傾向があるものの、参加した12名の生徒は、作業についての説明を聞きながら、集中して取り組んでいた。学校への復帰について追跡調査を進めていく方針で、当館での体験が復帰への一助になることを願う。



フレッシュキャンプ(土器水洗)

### ○博学連携ワークショップ

期日：平成26年6月7日(水)

内容：学校教育における博物館活用の促進を図るため、当館がこの地にあること、学習支援の実際、博

博物館活用のよさの周知が必要であるとの考えから、小学校の先生方を対象としたワークショップを6月に開催した。「学校と博物館でつくる来館学習ワークショップ in 九歴 ～博物館を生かした『あそぶ・まなぶ・たのしむ』学習を先生とともに～」と銘打ち、市内や近隣地域の小学校の先生方の参加を呼びかけ、18名の参加があった。

参加者は、児童を引率して来館学習の実際を体験された方や初めて来館された方、6年生以外の担当の方など様々である。意見交流の場面では、博物館を活用する効果や、よりよい展示、学習活動の在り方についていろいろな意見が出された。博物館を活用した学習の主体者に巻き込み、実際の学習を指導する授業者の目線、子どもたちの目線に立った声をいかして、展示や学習活動の改善を図っていく方向である。



博学連携ワークショップ

日程は以下のとおりである。

時間	内容	場所
13:00～13:30	受付	
13:30～13:40	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:40～14:20	館内見学（展示解説）	第1・4展示室、中庭バックヤード
14:20～14:50	古代体験（メニュー紹介・体験）	第4展示室
14:50～15:00	休憩	
15:00～15:30	企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を活用した来館学習の実際（模擬授業）	第2展示室
15:30～16:15	意見交流（グループ討議・全体交流）	研修室

参加者からの意見を受けた展示、来館学習についての検討課題は次の4点である。

- ・キャプションの文字を大きくする
- ・展示の見方についてのパネルを作成する  
パネルの絵の中にある道具を展示資料の中から見つけ、実物とその使い方を捉えさせる
- ・触れる資料を準備する
- ・展示室での学習、教室での学習それぞれの役割を再検討し、学習構成する

## (5) ボランティア

### ◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、現在第2期の26名が活動されている。土・日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習への対応補助などを行っており、25年度からはボランティア主催のイベントも行っている。また、古代体験の新たなプログラムの開発などにも積極的で、ぎっちょう、クテ打ち組紐などを試行的に導入した。追加募集により26年度から新たに加わった4名の方々も順調に馴染まれ、研修や実践を経て貴重な戦力として活動されている。

また26年度からは、「自主研究」として各人が研究したいテーマについて、4つのグループに分かれて研究や調査を行っている。27年度まで研究を行い、成果展・報告会を行う予定である。

### ◎研修会

#### ○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見、識見を高めるとともに、ボランティア間の交流のため、毎月第2土曜日の午前中に定例研修会を開催している。研修会の内容は、土・日・祝日の当番の調整を行ったあと、当館学芸員による講話、展示見学などを行った。その内容は以下のとおりである。

回数	開催日	内容
第1回	4月12日	研究テーマづくり（テーマ分類）
第2回	5月10日	グループ編成
第3回	6月14日	方向性検討・グループ間交流
第4回	7月12日	グループ決定
第5回	8月9日	展示解説「発掘速報展2014」
第6回	9月13日	展示解説「徹底解説!!水城のすべて」
		展示解説「黒田官兵衛と城」
第7回	10月11日	展示解説「福岡の神仏の世界」
第8回	11月8日	ぎっちょうの歴史と出土遺物
第9回	12月13日	「飛び出すむかしの宝箱」新メニュー
第10回	1月10日	展示解説「海の王都・一支国」
第11回	2月14日	展示解説「大宰府の役所」
第12回	3月14日	ボランティア研究中間報告会

#### ○バス研修会・交流会

26年度は、2月13日（金）に宗像大社神宝館、海の道むなかた館を訪問した。神宝館では学芸員による展示解説を聞き、世界遺産登録をめざす沖ノ島や宗像大社について学んだ。また、海の道むなかた館ではボランティアによる指導のもと土笛づくりを行ったのち、グループでの意見交換として互いにそれぞれの日頃の活動や思いを語り合い、展示解説を聞いたりして交流を深めることができた。

また、3月4日（水）には、25年度に訪れた北九州いのちの旅博物館よりシーダー（ボランティア）

が当館に来館。当館の古代体験を楽しんでもらい、グループでの意見交換により一層親睦を深めることができた。

### ◎ボランティア活動

#### ○古代体験・バックヤードツアー

これまで実施している古代体験メニューに加え、26年度より、今後の新メニューへの追加の試行として、古代の遊び「ぎっちょう」の簡易版を導入した。ボランティアの熱心な声かけもあり子どもたちには好評で、中庭で楽しむ姿が見られた。また、受付を行っている「飛び出すむかしの宝物」については、ボランティアが積極的に来館者に勧めたことで参加者の増加が著しく、この体験のために遠方から訪れる来館者もいた。

さらに学童保育所、子ども会、アンビシャス広場などによる団体での「古代体験」への申込みや、平日の団体による体験申込みにも対応し、館内案内と合わせ楽しんでいただいた。

26年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。

古代体験メニュー及びバックヤード解説	参加者数（名）
「和同開珎をつくろう（鑄造体験）」（有料）	448
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本とり）」	320
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネツ作り）」（有料）	514
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の試着）」	212
「パズル土器（復元体験）」	1,890
「大宰府政庁建物の復元」	483
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	1,086
「きゅうおに」のぬりえにちょうせんしよう！！	497
「きゅうおに」紙芝居	37
飛び出すむかしの宝箱	317
バックヤード（第4展示室含む）解説	847
体験者延べ人数	6,658

#### ○ボランティアイベントの開催

25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。土・日・祝日に開催している古代体験コーナーの一角や館の前庭を利用して、参加無料、予約不要で小規模なイベントを行っている。内容は歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、イベント会場には歴史的背景や出土資料のパネルを設置して、理解を深めていただいた。26年度は節



バス研修「海の道むなかた館 土笛づくり」



ボランティア活動「拓本採り」

句等に合わせて3回を開催したが、参加者も増加傾向にあり、ボランティアが新たにメニューを開発するなど、来館者サービスとともにボランティア活動の活性化促進ともなった。

- ・ 5月18日（土）「おりがみで作ってみよう！いろいろな『かぶと』」

内容：企画展「黒田官兵衛と城」にあわせ、官兵衛使用の「赤合子形兜」を中心に様々種類の兜の折り方をマスターし、当日は参加者に指導すると共に、大型の「被れる兜」も製作して子どもたちを喜ばせた。参加者は38人で、保護者も一緒に楽しんだ。

- ・ 11月9日（日）「九歴『ぎっちょう』親子大会～木の杖と木の玉を使った 昔の遊びしてみよう～」

内容：“ぎっちょう”は木の玉（毬）を木の杖（毬杖）で打つ古代の遊びで、観世音寺の発掘調査で道具が出土している。ボランティアの「ぎっちょうを復活させたい」との思いから、出土資料を参考にボランティアが道具を作成し、独自のルールを考案して実施した。当日は12名の親子が参加され、館前庭に作ったコースを回った。

- ・ 3月1日（日）「作ってみようよ！『Myおひなさま』『組紐ストラップ』」

内容：おりがみでお雛様を作って台紙に貼り、色鉛筆などで好みの装飾をする点は25年度とは変更せず、お雛様や装飾の種類を増やすなどボランティアのアイデアが光った。また合わせて、23～25年度に講習を受けた「クテ打ち組紐技法」での指編みの組紐ストラップ作りも初めてメニューに追加し、機織り体験なども行った。

当日は開館前から待つ方もあり、子どもから年配の方まで総数80名の参加があった。



ボランティアイベント「折り紙でかぶと！」

### ◎自主研究グループ

27年度末に現在の第2期ボランティアによるボランティア研究成果報告会及び成果展を開催する。それに向けて、26年度夏に4つのグループにわかれ、研究テーマの設定、活動計画を行い、その後グループごとにテーマに沿った調査・研究活動を進めている。3月には中間報告会を実施し、これまでの活動の経緯や今後の方向性について、互いに交流した。グループ（テーマ）は以下のとおりである。

- ・ 街道に行く
- ・ 神さま仏さま～信仰と伝承～
- ・ 古代の道具づくり
- ・ 古代の土木技術・文化

## (6) 普及・活用事業

各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象としたイベントや子ども向けの体験講座などを実施することで、文化財愛護思想の普及や文化財の活用に資するとともに、来館者の誘致を図った。

### ◎講座・講演会

#### ○名誉館長講座

西谷正名誉館長を講師として、毎月1回実施する全12回の連続講座である。26年度のテーマは「中世の朝鮮半島」で、定員160名に対し200名の受講申し込みがあった。また、25年度に引き続き、12回すべてを受講した受講生42名に皆勤賞表彰を行った。

開講日、演題、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演 題	受講者数(名)
第1回	4月26日(土)	高麗の首都・開城	181
第2回	5月31日(土)	三別抄の乱の舞台－江華島・珍島・済州島	174
第3回	6月28日(土)	高麗の鎮城・山城と長城	147
第4回	7月26日(土)	高麗仏教の寺院跡と遺物	170
第5回	8月24日(日)	高麗の王陵と墳墓	149
第6回	9月27日(土)	高麗の土器・陶磁器と窯跡	146
第7回	10月25日(土)	高麗青磁の起源	141
第8回	11月22日(土)	高麗陶磁器の生産と流通－沈没船の調査成果－	134
第9回	12月20日(土)	新安沖海底と中国出土の高麗青磁	123
第10回	1月24日(土)	朝鮮出土の中国陶磁器と日本出土の高麗青磁	127
第11回	2月28日(土)	高麗の祭祀遺跡と双鳳文柄鏡	136
第12回	3月28日(土)	高麗と琉球	129
受講者数総計			2,001

#### ○九歴講座

毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。26年度は延べ1,604名が受講した。

開講日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演 題	講師(所属)	受講者数(名)
第1回	4月12日	船原古墳遺物埋納坑の科学調査最前線	小林 啓(当館)	158
第2回	5月10日	大宰府史跡の調査成果	下原幸裕(当館)	148
第3回	6月14日	韓国の古仏と石塔	井形 進(当館)	161
第4回	7月12日	福原長者原遺跡と古代の豊前国府	岡田 諭(当館)	139
第5回	8月9日	「庚寅」銘大刀と7世紀の北部九州	大塚紀宜(福岡市)	113
第6回	9月13日	霊峰 宝満山	山村信榮(太宰府市教育委員会)	136
第7回	10月11日	朝倉地域の歴史と食文化	小池史哲(甘木歴史資料館)	113

第8回	11月8日	中世の北部九州と宗像氏	野木雄大（福岡県）	113
第9回	12月13日	柳川ゆかりの洋画家龍駿介がみた山河	江島 香（柳川古文書館）	82
第10回	1月10日	一支国の王都・原の辻の全貌	松見裕二（苓崎市教育委員会）	196
第11回	2月14日	大宰府出土の木簡	酒井芳司（当館）	131
第12回	3月14日	求菩提の農村景観	坂梨祐子（豊前市教育委員会）	112
受講者数総計				1,604

### ○九歴ゼミ

第2・第4水曜日の夜18:30～20:00（18:00受付開始）に実施する、当館の学芸員を講師とした専門講座である。4～6月、7～9月、10～11月の年間期、各期6回ずつ連続講座として開講した。定員30名に対し每期それを上回る応募があったが、可能な限り受け入れる方向で対応し、応募者全員を受講生とした。なお、3期ゼミは特別展の会期にあわせ、毎週水曜日の開講を試み、好評を得た。

開催期間、演題、講師、各期（6回）延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	テーマ	講師	延べ受講者数
第1期	4～6月	古代山城について	小田 和利	432
第2期	7月～9月	史料が語る大宰府の歴史	松川 博一	295
第3期	10月～11月	福岡県の仏像と神像	井形 進	381
延べ受講者数総計				1,108

### ○特別展・企画展記念講演会

定期的な講座やゼミとは別に、特別展や企画展の開催を記念して、展示内容に則した報告会や講演会を開催した。

26年度は5回開催し、開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数（名）
8月2日	『調査報告会2014』 ◎延永ヤヨミ園遺跡「古代の文字、発見!？」 ◎本町遺跡「柳川の近世城下町、発見!」 ◎大宰府史跡「言わずと知れた遠の朝廷!」	文化財調査室 城門義廣 学芸調査室 酒井芳司 文化財調査室 秦 憲二 学芸調査室 岡田 諭	111
9月7日	『黒田官兵衛と城』 「官兵衛の築城を探る—福岡城を中心に—」	中井 均（滋賀県立大学教授）	169
9月23日	『徹底解説!! 水城のすべて』 「水城の築造技術と構造 —現代土木技術者の視点から—」	林 重徳（佐賀大学名誉教授）	191
11月1日	『福岡の神仏の世界』 「福岡県の仏像」	八尋 和泉 （元当館参事・元別府大学教授）	159
1月17日	『政治家野田卯太郎から見る日本の近代』 「『地方の時代』が生んだ政党政治家 —野田卯太郎の活動と関係文書の意義—」	有馬 学（福岡市博物館長）	73
受講者数総計			703

### ○夜のギャラリートーク

26年度も、一旦閉館した後に展示解説を行う夜のギャラリートークを実施した。当館では、来館者の観覧の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、「解説シート」を無料で配布している。通常は行わない解説を夜に開催することで、日中には来館が難しい現役世代や女性へのサービス

を目指している。18:30に開館、19:00～20:00まで展示解説を行う。

企画展、特集展示、特別展それぞれの展示担当学芸員により、一つ一つの展示物について詳しく解説するとともに、その歴史的な背景やそれらにまつわる人々の思いにまでふれる説明をする。参加者は熱心に展示品に見入り、解説に聞き入るひとときとなっている。

26年度は5回実施し、開催日、内容、講師、参加者数は以下のとおりである。



夜のギャラリートーク「黒田官兵衛と城」

回数	開催日	内容	講師	参加者数(名)
第1回	9月3日	企画展「黒田官兵衛と城」	岡寺 良	33
第2回	9月17日	企画展「徹底解説!水城のすべて」	岡寺 良	21
第3回	10月24日	特別展「福岡の神仏の世界」	井形 進	38
第4回	12月17日	企画展「政治家野田卯太郎から見る日本の近代」	渡部 邦昭	4
第5回	3月4日	特集展示「大宰府の役所」	酒井 芳司	8
参加者数総計				74

### ○ふくおか県政出前講座

県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」において、県民の要請を受けて計9回の講座に赴いた。当館の提示しているテーマは「文化財の保護と活用」「福岡県の歴史と文化」「大宰府史跡等について」「九州歴史資料館の利用について」である。

26年度の実績は以下のとおりである。

期日	テーマ	講師	依頼者
7月8日(火)	防人と軍団について	松川 博一	つくし郷土史会
7月8日(火)	古墳時代について	下原 幸裕	えんがわ倶楽部(古賀市高齢者生きがいづくり支援センター)
7月28日(月)	大宰府と天神信仰	松川 博一	筑紫南高年クラブ
8月21日(木)	福岡県や篠栗町の文化財等について	井形 進	篠栗町社会福祉協議会(しるばア大学)
10月24日(金)	黒田官兵衛と城	岡寺 良	奈多公民館主催講座(高齢者地域参画講座)「ゴールド大学」
10月28日(火)	大宰府史跡等について	岡田 論	生涯学習市民講座「笑って和んで健やか塾」
12月19日(金)	「朝倉地域を中心として」	小田 和利	歴史講座(朝倉地域コミュニティ協議会生涯学習講座)
3月3日(火)	大宰府史跡等について	下原 幸裕	高齢者ふれあい教室
3月13日(金)	史跡めぐりの楽しさと発見ポイント	小田 和利	あるきんしゃい会

### ◎一般来館者対応事業

当館の施設や業務内容を知っていただき、またより深く文化財とその保護・保存の重要性を理解していただくために、来館者対応事業として、館独自のサービスを職員が行っている。

### ○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の公開・普及の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見る事ができるコーナーである。土・日・祝日限定で、ボランティア控え室前で実施している。26年度は発掘速報展対応メニューに新資料を加えて改変し、現在5メニュー60点を公開している。利用件数は95件、総利用者数は185名と、25年度に比べ大幅に参加者が増加した。

27年度は発掘速報展対応メニューを改変するとともに、他のメニューの利用度の低い資料を交換する予定である。当館の特徴的な事業として、今後さらに広報に力を入れる方向である。

各メニューの利用者と26年度に改変した新資料は以下のとおりである。

メニュー	利用件数(名)
縄文時代メニュー	181
発掘速報展対応メニュー(26年7月改変)	189
江戸時代メニュー	108
戦国時代メニュー	150
明治・大正・昭和メニュー	95



産地が判明した須恵器



奈良時代の土師器



山陰系土器



軒丸瓦



製鉄遺跡の鉄滓・羽口

### ○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった一般団体に対して、職員による展示や施設の解説、平日のボランティアによる古代体験の対応などを行っている。また、当日申込みの団体に対しても、可能な限り対応している。

26年度は約70団体の案内を行い、約2,200名の参加があった。

### ◎体験教室・イベント

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

26年度は、恒例の夏休みを中心に小学生などを対象とした体験教室や七夕イベント、特別展開催記念イベントのほか、他機関や団体との連携イベント、講座なども開催した。

#### ○考古学体験教室 2014(発掘速報展2014関連事業)

期日：平成26年7月27日(日) 13:30～15:30

内容：当館は毎年県内に所在する多くの遺跡の発掘調査を実施し、文化財整理室ではそれらの遺跡から出土した土器や石器などの洗浄や復元、実測、写真撮影、製図作業を行い、調査報告書を刊行している。この整理作業は中庭からガラス越しに常に見学することができるが、本物の資料に触れて体験してもらうために、発掘速報展の開催に合わせて、実際に発掘調査で出土した資料を用いて、当館職員の指導により小学校5・6年生を対象とした体験教室を行った。前年度のアンケート結果を踏まえて、今回は土器の復元作業を直接体験してもらい、文化財に対する理解を深めてもらった。参加者は14名である。

○なるほど!! 子ども歴史教室 2014 「ふくおか官兵衛くんと学ぶ、めざせ!! お城博士」

日時：平成 26 年 8 月 22 日（金） 13:30～15:30

内容：夏休み中の小学生を対象に、歴史や考古学に関する学習と体験を行う歴史教室を開催した。

26 年度は、企画展「徹底解説!! 水城のすべて」・「黒田官兵衛と城」の開催に併せ、「軍師官兵衛」福岡プロジェクト協議会の協力を得て、マスコットキャラクター「ふくおか官兵衛くん」に参加してもらい、「ふくおか官兵衛くんと学ぶ、めざせ!! お城博士」というテーマで日本のお城についてのクイズ、展示見学、弓矢づくり・試射体験を実施した。

当日は 30 名の参加があり、ふくおか官兵衛くんとともに熱心に学習・体験を行った。

プログラムは以下のとおりである。



なるほど!! 子ども歴史教室「ふくおか官兵衛くんと学ぶ、めざせ!! お城博士」

時 間	プログラム
13:30～13:35	開会あいさつ
14:00～14:25	めざせ!! お城博士ゼミナール（ふくおか官兵衛くんのクイズに答えよう）
14:25～14:35	休憩
14:35～15:00	簡単!! 戦国弓矢作り

○ナイトミュージアム in きゅうれき

期日：平成 26 年 8 月 26 日（火）・平成 27 年 2 月 27 日（金）

内容：25 年度まで宿泊を伴う内容で実施していた事業であるが、26 年度は、宿泊は行わず、夏・冬 2 回の開催とした。

夏は小郡市埋蔵文化財調査センター、福岡県青少年科学館との連携により、それぞれ「火起こし体験」、「星の話、天体観察」に対する協力を得て実施した。

冬は夏に引き続き福岡県青少年科学館の協力により「星の話、天体観察」を行うとともに、当館学芸員による「暦の話」を行い、月と人々のくらしが密接につながっているを感じ取ってもらうを通して、



ナイトミュージアム in きゅうれき「火起こし体験」

これから見る「月」への親近感をふくらませてもらった。残念ながら、天候条件により天体観測はかなわなかったが、プラネタリウムプログラムDVD視聴を楽しんでいただいた。

27 年度も宿泊を行わず、夏・冬の 2 回の実施を予定している。

各回のプログラムと参加者は以下のとおりである。

夏：8 月 26 日（火）参加者 32 名

	プログラム	活動内容	活動場所
15:30～15:45	開講式	館代表あいさつ、日程説明	研修室

15:45～16:45	館内案内	バックヤード中心に作業・展示解説	バックヤード・展示室
16:45～18:00	火起こし体験	小郡市職員指導による火起こし体験	館東軒下
18:00～18:30	軽食	持参した軽食を摂り、探検の班発表	研修室
18:30～19:00	星の話	青少年科学館職員による夏の星・星座の話	研修室
19:00～19:30	館内探検	ナイトミュージアム	館内
19:30～20:30	天体観察	目視、天体望遠鏡による天体観察	前庭
20:30～21:00	閉講式	アンケート記入、あいさつ	研修室

冬：2月27日（金）参加者28名

	プログラム	活動内容	活動場所
17:45～18:00	開講式	館代表あいさつ、日程説明	研修室
18:00～18:45	館内案内	展示室中心に展示解説	バックヤード・展示室
18:45～19:00	軽食	持参した軽食を摂り、探検の班発表	研修室
19:00～19:20	星の話・月の話	科学館職員による冬の星・星座の話 当館学芸員による月・暦の話	研修室
19:20～20:00	天体観察	天候不順のため研修室にてDVD視聴に変更	前庭
20:00～20:45	館内探検	ナイトミュージアム	館内
20:45～21:00	閉講式	アンケート記入、あいさつ	研修室

### ○きゅうれき七夕イベント

期日：平成26年7月7日（日） 10:00～16:00

内容：当館の所在する小郡市が「七夕の里」をアピールしていることに関連し、毎年7月7日の七夕直近の週末に開催しているイベントである。

26年度は「九州産業高校弓道部」による実技、ジャズユニット「Good Neighbors」によるコンサートを開催した。例年行っている七夕にちなんだ機織り体験、古代体験を終日行ったほか、パフォーマンスの合間には、太宰府検定の過去問にチャレンジするウォークラリーを実施し、さまざまな年齢層に楽しんでいただいた。当日の来館者数は238名であった。



七夕イベント「弓道実技」



七夕イベント「ジャズコンサート」

タイムテーブルは次の通りである。

	プログラム	会場
10:00～16:00	七夕短冊づくり・機織り体験・古代衣装試着 古代体験	エントランス 研修室
13:00～13:10	オープニング	第4展示室

13:10～13:40	九州産業高校弓道部による実技	中庭
13:40～15:40	「太宰府検定の過去問にチャレンジ！」	第1～4展示室
14:30～15:30	「Good Neighbors」コンサート	第4展示室
15:40～15:45	クロージング	第4展示室

### ○企画展「黒田官兵衛と城」関連イベント「福岡黒田武将隊 参上！」

期日：平成26年9月6日（土）10:00～15:40

内容：企画展「黒田官兵衛と城」の開催内容に合わせて、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映に伴って結成された「福岡黒田武将隊」を当館に招き、イベントを開催した。当日は武将隊の演武や参加者とともに盛り上がる「武将隊体操」を披露してもらい、来館者にも楽しく参加していただいた。また合わせて企画展のギャラリートークや機織り体験も開催し、総数で70名の参加があった。



福岡黒田武将隊 参上！

### ○特別展開催記念イベント「アクロス福岡ミュージアムコンサート」

期日：平成26年10月19日（日）11:30～15:00

内容：26年度の特別展「福岡の神仏の世界－北部九州華花開いた信仰と造形－」の開催を記念して、アクロス福岡との共催で「ミュージアムコンサート」を開催した。コンサートは2部制で行い、内容は特別展のイメージにあわせ「シルクロード」をテーマに、プロのアーティストによる和洋折衷の楽器による演奏が行われた。



特別展開催記念イベント  
「アクロス福岡ミュージアムコンサート」

また、本来の目的である特別展観覧については、コンサートの前後及び休憩時間に第1・4展示室のミュージアムトークを3回行った。展示は実物資料展示とパネル展示があるため、どちらも楽しめるよう、各担当者が内容を変えて解説する構成とした。

イベントには延べ280名の参加があり、アーティストとプログラムは以下のとおりである。

アーティスト：横笛－藤舎元生／ヴィオラ－森下香蘭／ベース－森 しのぶ／ピアノ－吉岡かつみ／パーカッション－中村健（敬称略）

	プログラム
11:30～12:00	特別展ギャラリートーク その一（第1展示室）
13:30～14:00	アクロス福岡ミュージアムコンサート Vol.1（第4展示室）
14:15～14:45	特別展ギャラリートーク その二（第1展示室）
15:00～15:30	アクロス福岡ミュージアムコンサート Vol.2（第4展示室）
15:45～16:15	特別展ギャラリートーク 番外編（第4展示室）
9:30～16:00	古代体験

### ○特別展開催記念茶会

期日：平成26年10月13日（月・祝）10：00～15：00

内容：25年度から小郡市文化協会裏千家と共催で開催している「記念茶会」を26年度も開催した。当館の特別展開催記念として文化協会恒例の茶会を行ったものである。25年度は特別展記念イベントと合わせて開催したが、26年度は別日程で開催した。特別展の観覧とともに、茶会参加者も含めた来館者に対するギャラリートークを午前・午後の2回併せて行った。

当日はあいにくの台風直撃予想日であったが、さほど天候の急変もなく160名の参加があった。



特別展記念茶会「博物館でお手前を」

### ○移転開館来館者10万人達成記念

期日：平成26年11月8日（土）

内容：移転開館してからの来館者が10万人に達し、記念式典を開催した。

記念すべき10万人目の来館者は宗像市の藤野正人さん。館職員や居合わせた大勢のお客様に拍手で祝福されながら、来館者10万人目を記念し館長とともにくす玉を割り、館長が花束や図録などの記念品を贈呈した。



移転開館来館者10万人達成記念

### ○「九州歴史資料館のウラガワ探検と『万葉食』いただきます!」(久留米まち旅博覧会参加事業)

期日：平成26年11月16日（日）15：00～17：30

主催：九州歴史資料館・久留米まち旅博覧会事務局

協力：常若会

26年度も「秋のまち旅」に参加し、「九州歴史資料館のウラガワ探検と『万葉食』いただきます!」を開催した。25年度同様、通常は見ることのできない文化財収蔵庫や整理作業室などを見学する「バックヤードツアー」と閉館後の特別展の解説をメインとし、今回は【常若会(とこわかのかい)】の全面的な協力によって万葉食を堪能していただくという内容であった。当初は10月13日（月・祝）開催予定であったが、台風の直撃の直撃予報のため、改めて11月の開催となった。万葉食の人気からか定員40名に対して上回る申込みがあり、結果37名の参加があった。



九州歴史資料館のウラガワ探検と『万葉食』いただきます!

また、26年度は同事業の「いつでもまち旅」にも参加し、月1回のバックヤードツアーを実施し、参加者総数は20名であった。

### ○企画展開催記念「一支国博物館出前体験イベント」

期日：平成27年2月1日（日）10：00～16：00

主催：一支国博物館・原の辻ガイダンス・九州歴史資料館

内容：彦根市教育委員会との共催展示である企画展「海の王都 一支国－原の辻遺跡と彦根の至宝－」の開催を記念して、彦根市の施設で実施されている古代体験メニューの出前イベントを開催した。彦根市から全て機材を搬入して行った大イベントである。

貝殻を使ったキャンドルアートや本物のガラス玉作りなど、珍しいメニューも多く通常は有料のところをすべて無料という事もあってか、老若男女多数の参加者が訪れ、準備したアイテムは全てなくなり、延べ参加者は200名を越えた。



一支国博物館出前体験イベント「凧づくり」

スケジュールと内容は以下のとおりである。

内容	スケジュール
貝殻キャンドルアート	① 10:00～11:00 ② 11:00～12:00 ③ 13:00～14:00 ④ 14:00～15:00 ⑤ 15:00～16:00
ガラス玉づくり	① 10:00～12:00 ② 14:00～16:00
凧づくり・凧あげ	① 10:00～11:30 ② 13:30～15:00
滑石製勾玉づくり	① 11:00～12:00 ② 13:00～14:00 ③ 15:00～16:00

### ○“古代米の本格栽培にむけて・・・”プロジェクト

期間：平成26年5月～10月

内容：当館には、古代米などの栽培農園を持たないため、現在のところ本格的な植物栽培などの実験考古学的イベントを行うことができないが、将来的なイベント実施に備え、24年度からパンケースによる古代米栽培を実施している。26年度も昨年度に引き続き（公財）古都大宰府保存協会の協力を得ながら、パンケース10箱分の赤米・黒米栽培を当館の中庭にて、学芸研究班員と保存管理班員の担当のもとに行った。例年どおり、発芽・田植えの後、順調に生育したものの、予定していた打製石包丁による刈り取り体験イベントは天候不順のため、中止せざるを得ず、職員により収穫した。27年度以降も実施する予定である。

### ◎その他関係機関・団体との共催事業

#### ○文化財めぐり

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課・九州歴史資料館）

期日：平成26年11月3日（月・祝）10:00～15:00

内容：26年度は特別展「福岡の神仏の世界－九州北部に華開いた信仰と造形－」関連イベントとして開催した。学芸員が同行して解説するもので、特別展の内容に合わせ、観世音寺宝蔵の仏像群をはじめ、水城跡から太宰府天満宮までの史跡地や伝承地をめぐり、56名の参加があった。コースは以下のとおりである。

水城東門跡駐車場口集合→水城跡東門付近→衣掛天神→太宰府天満宮一の鳥居→大宰府政庁跡→学校院跡→観世音寺および宝蔵→朝日地蔵→天満宮門前



文化財めぐり

### ○九歴講座 in 太宰府

主催：太宰府市文化ふれあい館・九州歴史資料館

内容：「九歴講座 in 太宰府」は、太宰府市文化ふれあい館が市民と地域の研究者との情報交換・研究交流の活発化を促す目的で開講している「太宰府学講座」の一環として企画されたものであり、当館が、太宰府市から小郡市に移転・開館したことを機に、当館が行っている大宰府史跡等の調査研究成果を広く県民に紹介することを目的とした連携講座である。

26年度は3回の講座を実施した。

実施日と内容、参加人数は以下のとおりである。



九歴講座 in 太宰府

回数	開催日	演題	講師	受講人(名)
第1回	7月9日(土)	「大宰府と寺社」	松川 博一	72
第2回	8月16日(土)	「大宰府式鬼瓦—その正体解明に向けて—」	井形 進	65
第3回	9月20日(土)	「水城の構造を探る」	杉原 敏之	101
受講者数総計				238

### ○第4回九州山岳霊場遺跡研究会・平成26年度おおいた石造文化研究会合同研究大会

「国東半島の山岳霊場遺跡—六郷満山の寺院と信仰—」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会・おおいた石造文化研究会

共催：九州歴史資料館・豊後高田市教育委員会

後援：六郷満山会・日本山岳修験学会・石造物研究会

期日：平成26年8月30・31日(土・日)

参加人数：8/30(土) 58名・8/31(日) 160名

内容：8月30日(土) 現地研修会(長安寺・天念寺・両子寺)

8月31日(日) 研究集会(於：豊後高田市中央公民館大ホール)

基調講演 「六郷山山岳仏教の信仰と造形」(渡辺文雄)

研究報告1 「六郷山寺院調査について」(原田昭一)

研究報告2 「中古六郷山と旧霊場について」(隈井修道)

研究報告3 「六郷山における埋経について」(吉田和彦)

シンポジウム 「国東半島の山岳霊場遺跡を考える」

### ○放送大学面接授業「大宰府講座」

主催：放送大学・九州歴史資料館

期日：平成26年11月29日(土)・11月30日(日)

内容：当館では大宰府の歴史・文化を幅広く人々に知っていただくという趣旨の下に、19年度から放送大学教養学部の面接授業を実施している。26年度は「大宰府と肥前編」として授業を行った。受講者数は38名であった。詳細は以下のとおりである。

【1日目】11月29日(土)

1時限：「肥前国の神籠石と古代山城」

(講師：九州歴史資料館 小田和利)

2 時限：「大宰府と肥前国府」

(講師：九州歴史資料館 杉原敏之)

3 時限：「防人木簡からみた社会動向」

(講師：佐賀県教育委員会 小松 譲)

4 時限：1～3 時限で行われた講義の内容をもとに筆記試験

各講義では古代大宰府と関係が強い肥前国の古代山城や国府、木簡出土遺跡を取り上げ、大宰府と西海道諸国の関係に焦点を当てて説明した。

【2 日目】11 月 30 日（日）

1～4 時限：巡検（唐津市鏡山、武雄市おつぼ山神籠石、佐賀市肥前国庁跡の見学）

### ○水城・大野城・基肆城 1350 年記念式典・シンポジウム

期日：平成 26 年 8 月 23 日（土） 10:00～17:00

主催：水城・大野城・基肆城 1350 年事業実行委員会

内容：特別史跡「水城・大野城・基肆城」が平成 26・27 年に築城 1350 年を迎えることを記念した、福岡県・佐賀県の 2 県 4 市 2 町と当館の広域連携事業である。26 年度は「水城」をテーマに太宰府市中央公民館でシンポジウムを開催し、延べ 1,000 名の参加があった。

### ○「クテ打組紐技法講座（応用編）ーループ技法でひもを組んでみよう!!ー」

主催：クテ打ち組紐技法研究会・九州歴史資料館

期日：平成 26 年 10 月 3 日（金）（九歴ボランティア向け研修）・4 日（土）（一般向け講座）

内容：文化庁「芸術文化振興基金助成事業」の一環として、当館とクテ打組紐技法研究会の主催で継続して開催している講座である。24 年度は入門編として「2 段階手順」を、25 年度は中級編としてより複雑な技法の「4 段階手順」を、26 年度は応用編として「指操作 3 基本技法」を元にしたストラップ、ミサンガ作りを実施した。初日は九歴ボランティアの復習講座でクテ打組紐技法研究会が講師として指導にあたり、2 日目は一般向け講座として同研究会が指導し、九歴ボランティアが指導補佐を行った。

なお、当事業は 26 年度で終了するため、27 年度からはボランティアが指導者として講習を行う。

開催日、内容、受講者数は次のとおりである。



放送大学面接講座「大宰府講座」



クテ打ち組紐技法講座

開催日	内容	参加対象	受講者数（名）
10 月 3 日（土）	「復習編」指導者講習	九歴ボランティア	11
10 月 4 日（日）	「復習（入門）編」	一般参加者	20
受講者総数			31

○九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：NPO法人三沢遺跡の森を育む会

共催：九州歴史資料館

当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として25年度に発足したNPO「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業として周辺住民への啓発活動を26年度も開催した。イベントを通じて三沢遺跡の森ばかりでなく、自然環境保全の意識を育むことを目指した。

開催日、内容、参加人数は以下のとおりである。



三沢～歴史と自然の丘プロジェクト「和ろうそく作り」

開催日	内 容	参加人数(名)
8月3日(日)	夏の生き物探検隊	こども24、保護者16
10月25日(土)	秋の山野草を楽しむ会(当館へはトイレ使用のみ)	
2月8日(日)	和ろうそくを作ろう (佐賀県みやき町の「中原の豊かな自然を守る会」協力)	子ども22、大人20

○第7回温泉アート展プレイベント「筑前琵琶と墨象パフォーマンス・ワークショップ」

期日：平成26年4月13日(日) 13:00～15:30

主催：温泉アートプロジェクト・九州歴史資料館

内容：筑紫野市の二日市温泉周辺で展開される「第7回温泉アート展」のプレイベントとして、第4展示室にて開催した。雅GAHO 峰氏・中島美紀氏・中島千香子氏・岳舟氏の4名のアーティストが、寺田蝶美氏の筑前琵琶の美しい音色に乗せて様々な形・色合いを使ったダイナミックな墨象パフォーマンスを繰り広げ、作品は当館のエントランスで展示した。また、自由を楽しむ墨象の参加型ワークショップも行い、参加者の総数は70名であった。



「筑前琵琶と墨象パフォーマンス」

○企画展「黒田官兵衛と城」関連イベント「コマ回しをやってみよう！軍師官兵衛・黒田二十四騎の

こまで遊びながら福岡の偉人黒田官兵衛を知ろう」

期日：平成26年8月21日(木) 13:30～16:00

主催：福岡県とごま協議普及協会・九州歴史資料館

内容：福岡県とごま協議普及協会が制作した「黒田官兵衛・長政と二十四騎のさいふごま」を用いて、太宰府市国分アンビシャス広場で活動する「ちびっこ指導員」が幼稚園児に「コマ回し」を指導するイベントである。企画展「黒田官兵衛と城」にあわせて開催し、ちびっこ指導員たちは、来館した幼稚園児たちに優しく指導し、園児たちがコマ回しを楽しんだ。



「コマ回しをやってみよう！」

## (7) 広報活動

### ○一般向け広報

当館では、広報活動の強化を目的の一つとして、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告の活用や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、広報誌やフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用したり、近隣施設には直接訪れて協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っている。また広報資料の配付は、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の方々の利便性を考慮した広報を心がけている。周辺施設や文化財の紹介マップを作成したり、できる限り多数の他施設の広報資料を文化情報広場に設置しての幅広い情報提供を行うなど、当館が情報の発信源となるような工夫を行った。

27年度は、これらに加えて観光施設への広報の強化や近隣に造成される新興住宅地への周知やサービス提供に注力する。

### ○他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、25年度から文化情報広場に「魏志倭人伝のクニグニネットワーク（福岡県・佐賀県・長崎県と3県内11市町村の連携事業）」の紹介コーナーを設け、パンフレットやチラシは常時更新している。また26年度は、当館と福岡市博物館の特別展が共に「仏」をテーマにしたものであり、開催機関も重複したことから、相互広報として両館の特別展会場出口付近にお互いの紹介コーナーを設け、ポスターやチラシ、図録を掲示して展示内容を来館者に紹介した。その結果、双方を行き来する来館者も多くみられ、一定の効果が得られた。さらに同時期に県立図書館の企画展「日本の神様」も同様にポスターを掲示して紹介し、同様の広報を行った。

27年度は県内博物館等施設の紹介などを含め、施設間の相互広報の実施や呼びかけによる県内外の「広域広報ネットワークの構築」にも尽力したい。

26年度に行った主な広報は以下のとおりである。

#### (1) 定期的な広報

- ・ホームページの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：  
歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店・ホテル等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載  
教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおり・クロスロード福岡 ほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「日本歴史」「古代文化」各種フリーペーパー ほか
- ・情報サイトへの情報提供：インターネットミュージアム・イベントガイド・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供

#### (2) 不定期の広報

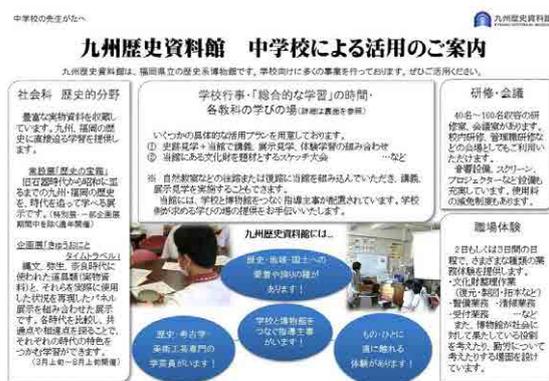
- ・NHK 福岡県広報番組「はっけんTV」（企画展「黒田官兵衛と城」）
- ・羽田空港での福岡県PR事業内におけるポスター掲示（企画展「黒田官兵衛と城」）
- ・当館特別展「福岡の神仏の世界」・福岡市博物館特別展「九州仏」における相互広報
- ・KBC テレビ福岡県広報番組「ふくおか暮らしに+」（施設・企画展「海の王都一支国」）
- ・高速道路マップ「WAO マップ」有料広告掲載

## ○博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を1校でも多く、1人でも多く体験してもらえよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。年度初めの小郡市校長会をはじめ学校訪問、研修会、棚入れや郵送など、様々な場、方法で広報を行い、館の活用促進を図った。27年度より福岡県教職員互助会が行っている「スクール・ミュージアム事業」に当館も参画することになり、3学期当初から2月6日まで下表の通り広報を行い、申込締切である2月18日に備えた。

26年度の活用実績は、来館学習10校、職場体験9校、出前授業1校であったが、「スクール・ミュージアム事業」への参画により、新たに数校の来館が見込まれる。その他の一般の来館学習、職場体験、出前授業についても、更に多くの学校による活用をめざしていく。

時期・日程	広報先	広報資料
1月中旬～2月初旬	小郡市内8小学校、三国中学校	○活用のご案内 (25年度作成小学校版・中学校版を一部改訂) ・来館学習、職場体験での館活用について ○「スクール・ミュージアム事業」周知チラシ
1月中旬～2月初旬	筑紫小、筑紫東小、原田小	
1月14日(水)	久留米市校長会	
1月16日(金)	糟屋地区小学校校長会	
1月22日(木)	糟屋地区中学校校長会	
1月23日(金)	筑紫地区小学校校長会	
1月23日(金)	小郡市・大刀洗町小教研全体会	
2月4日(水)	筑紫地区中学校校長会	



学校支援に向けた広報資料「小学校・中学校による活用のご案内」

## ◎記念品販売開始

当館には従来から記念グッズがなかった。そこで、来館者要望に応え、26年度から記念品(缶バッジ)の制作販売を開始した。缶バッジの種類は安全ピンタイプで、図柄は当館マスコットキャラクター「きゅうおに」・「大宰府政庁跡出土鬼瓦」・「大宰府式鬼瓦イラスト」・「ふくおか官兵衛くん」等で、それぞれ説明資料を付して販売した。



記念品「缶バッジ」

## (8) 実習・研修

### ◎実習

#### ○博物館実習

26年度は6大学から8名の大学生を受け入れ、8月19日(火)～29日(金)の期間、下記の内容で実施した。

日程	午前	午後	担当
第1日	開講式・オリエンテーション 名誉館長講話	講話「学芸員の実務」・施設見学	広報普及班・学芸研究班
第2日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第3日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第4日	出土資料の整理・記録		調査研究班
第5日	水城築造1350年記念セレモニー開催補助・シンポジウム聴講		広報普及班
第6日	資料の保存修復と保管		保存管理班
第7日	考古資料の取り扱い	図書資料の整理	学芸研究班
第9日	歴史資料の取り扱い		学芸研究班
第9日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第10日	博物館の保存環境	実習のまとめ・閉講式	保存管理班・広報普及班

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。

大学名	学部名	学科名	受講者数(名)
九州産業大学	芸術学部	科目等履修生	1
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	1
	文学部	英語学科	1
福岡女子短期大学		文化コミュニケーション学科	2
西南学院大学	法学部	法律学科	1
久留米大学		科目等履修生	1
長崎県立大学	国際情報学部	国際交流学科	1

#### ○県立学校等初任者研修「体験活動研修」

高校教育課が実施する、採用3年目の県立高等学校職員対象の初任者研修で、社会奉仕体験活動研修を行うものである。26年度に初めて筑紫高等学校・八幡高等学校・稲築志耕館高等学校の3校3名の教員から研修申込みがあり、7月29日(火)～8月1日(木)の期間に受け入れた。

実習内容は以下のとおりである。

月 日	内容	担当班
1日目	開講式・オリエンテーション・館内案内 図書資料整理業務補助・展示図録作成業務補助	広報普及班 学芸研究班
2日目	発掘調査出土資料整理作業補助	調査研究班
3日目	受付業務の補助・事務業務補助・館周辺の環境整備(除草作業) 閉講式	総務班 広報普及班

## (9) 刊行物

26年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館年報 平成25年度』	6月
2	『九州歴史資料館研究論集40』	3月
3	『九歴だより No.39』	4月
4	『九歴だより No.40』	10月
5	『福岡の神仏の世界—九州北部に華開いた信仰と造形—』	10月
6	『黒田官兵衛と城』	8月
7	『大宰府史跡ガイドブック2 特別史跡大野城跡』	3月
8	『九州歴史資料館解説シート44 福岡鉄道遺産ものがたり2—日本国有鉄道志免鉱業所—』	7月
9	『九州歴史資料館解説シート45 大宰府の役所—大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区成果展—』	2月
10	『九州歴史資料館解説シート46 古墳時代の導水施設—国内最古級・九州初出土の導水施設木樋—』	3月
11	『九州歴史資料館解説シート47 古墳から火葬墓へ』	3月
12	『大宰府政庁周辺官衙跡VI—不丁地区 図版編—』	3月
13	『大宰府政庁周辺官衙跡VII—大楠地区 遺構編—』	3月
14	『福岡県文化財調査報告書 第250集 福岡県の中近世城館跡II—筑前地域編2—』	3月
15	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—17— 皆見大塚古墳 カワラケ田遺跡2次調査3 (IV区)』	3月
16	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—18— 福岡県行橋市延永ヤヨミ園遺跡I区の調査2』	3月
17	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—19— 矢留堂ノ前遺跡(上巻)』	3月
18	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—19— 矢留堂ノ前遺跡(下巻)』	3月
19	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—20— 京ヶ辻遺跡2区 安武・深田遺跡B遺跡2・C遺跡』	3月
20	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—21— 鳥越下屋敷遺跡 大村湯福遺跡 鬼木鉾立遺跡』	3月
21	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—22— 塔田琵琶田遺跡第2次』	3月
22	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—23— ガサメキ古墳群2・3区 皿山古墳群』	3月
23	『一般国道201号行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 第2集 上片島遺跡群6地区』	3月
24	『一般国道201号行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 第3集 延永ヤヨミ園遺跡—IV区I—』	3月
25	『一般国道201号行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 第4集 延永ヤヨミ園遺跡—IV区II—』	3月
26	『一般国道201号行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 第5集 延永ヤヨミ園遺跡—III区II— 第1分冊』	3月
27	『一般国道201号行橋インター関連埋蔵文化財調査報告 第5集 延永ヤヨミ園遺跡—III区II— 第2分冊』	3月
28	『戦前期地域交通と政党・軍部の経済的関係の研究』	3月

## (10) 交流事業

### ◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。26年度は当館文化財調査室の職員を派遣した。

#### ○韓国国立文化財研究所への職員派遣

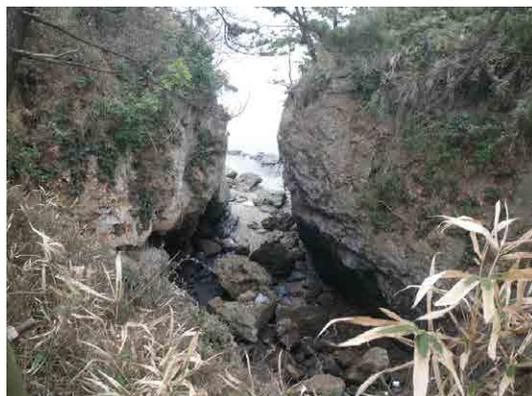
期間：平成27年2月16日（月）～3月1日（日）（14日間）

派遣職員：九州歴史資料館文化財調査室文化財調査班 主任技師 城門 義廣

研修内容：青銅器時代から三国時代にかけての韓国国内出土の石製品、木製品、祭祀遺物・遺跡関連の調査を行った。統一的なテーマではないものの、比較的県内の遺跡でも多く出土しており、それらとの比較研究を行っている。調査の方法としては、実見並びに熟覧、写真撮影を行った。また、竹幕洞遺跡については現地を視察し、地形等の確認を行った。国立文化財研究所においては、木製品や祭祀関連遺物が出土している行橋市の「延永ヤヨミ園遺跡」の調査成果について研究発表、意見交換を行い、同様の遺跡について教示を得た。

主な訪問先

- 韓国国立文化財研究所
- 扶余国立文化財研究所（宮南里遺跡出土遺物）
- 大邱国立博物館（東川洞遺跡出土遺物）
- 全州国立博物館（竹幕洞遺跡出土遺物）
- 竹幕洞遺跡現地
- 光州国立博物館（新昌洞遺跡出土遺物）



竹幕洞遺跡

#### ○韓国国立文化財研究所からの研究員派遣

期間：平成27年3月9日（月）～21日（土）13日間

派遣研究員：大韓民国国立文化財研究所復元技術研究室 学芸研究士 張 誠允

研修内容：古代土器の製作・交流に関する自然科学的研究

#### ○日韓学術文化交流事業講演会

期日：平成27年3月24日（月）

会場：九州歴史資料館研修室

講演：張 誠允（大韓民国国立文化財研究所復元技術研究室）

「胎土分析を通じた土器や煉瓦の産地推定と製作技法の研究」

井形 進（九州歴史資料館学芸調査室学芸研究班 技術主査）

「統一新羅時代から李氏朝鮮時代の仏像、磨崖仏」

## (11) 協議会等

### ◎九州歴史資料館協議会

平成 26 年 7 月 25 日（金）に森会長ほか 9 名の委員が出席して協議会を開催した。

#### ○協議・報告事項

- 1 平成 25 年度事業報告及び入館者数状況報告
- 2 平成 26 年度事業計画及び予算概要協議

九州歴史資料館協議会委員名簿

平成 26 年 4 月 1 日現在

	氏 名	所 属
( 会 長 )	森 醇一朗	久留米大学比較文化研究所客員教授
(副会長)	藤口 悦子	鍋島報効会徴古館副館長
委 員	木村 甚治	太宰府市教育委員会教育長
	難波 洋三	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	瓜生 郁義	桂川町教育委員会教育長（前桂川町立図書館長）
	河上 信行	河上建築事務所所長
	今津 節生	九州国立博物館博物館科学課長
	塚本 桂子	小郡市立三国中学校長
	佐古 和枝	関西外国語大学国際言語学部教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学法学部教授
	福田 千鶴	九州大学基幹教育院教授
	小林 知美	筑紫女学園大学文学部専任講師
高尾 美鈴	那珂川町立安德小学校長	

## 2 九州歴史資料館概要

### (1) 沿革

昭和43年7月1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年9月5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年3月8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和49年8月	求菩提資料館開館
昭和50年9月4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷一大宰府」開催
昭和56年4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年4月1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月1日	柳川古文書館開館
昭和63年9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷一大宰府」開催
平成2年9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成5年4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成8年4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成9年6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業開催（～12月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年6月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成22年3月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成22年7月	組織移転（太宰府市→小郡市）

平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始 (21 日～) 特別展「大宰府ーその栄華と軌跡ー」開催 (～ 1 月)
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道ー古代の役所と人々のくらしー」開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室 (文化財調査班、保存管理班) 設置
平成 23 年 7 月 25 日	登録博物館 (第 22 号)
平成 23 年 11 月	特別展「発掘された日本列島 2011」開催 (～ 12 月)
平成 24 年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催 (～ 2 月)
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道ー世界とつながった道ー」開催 (～ 12 月)
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催 (～ 3 月)
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 (～ 11 月) 「戦国武将の誇りと祈りー九州の覇権のゆくえー」開催
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」開催 (～ 2 月)
平成 26 年 4 月	杉光 誠、第九代館長就任
平成 26 年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」(～ 9 月)
平成 26 年 10 月	特別展「福岡の神仏の世界ー北部九州に華開いた信仰と造形ー」(～ 11 月)

## (2) 施設概要

1) 本館棟	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上 2 階 展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
2) 敷地面積	43,438.62 m <sup>2</sup>
3) 延床面積	9,475.92 m <sup>2</sup>
4) 一般収蔵庫棟	鉄骨造 木器保存処理室・一般収蔵庫
5) 建設費	約 36 億円 (本館・一般収蔵庫)

## (3) 予算

九州歴史資料館の事業費総額は 386,766 千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	132,783 千円
	資料館運営費	127,605 千円
	資料館展示費	2,331 千円
	歴史資料等収集整備費	971 千円
	歴史資料調査研究費	1,876 千円
2	文化財保護費	253,983 千円
	大宰府史跡発掘調査費	21,709 千円
	発掘調査受託費	232,274 千円
	※執行委任事業は除く	

## (4) 組織・職員 (平成 26 年 4 月 1 日現在)

### ①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要		
館 長		杉 光 誠	非常勤		
副館長		伊崎 俊秋			
総務室	企画主幹	塩塚 孝憲	総務室長		
	総務班	企画主査	山 崎 彰	総務班長	
		事務主査	南里 成子		
		事務主査	宮崎 奈巳		
		主 事	秦 健 太		
		技能員	松 本 優		
	学芸調査室	企画主幹	小田 和利	学芸調査室長	
		学芸研究班	技術主査	松川 博一	学芸研究班長
			技術主査	井形 進	
			技術主査	酒井 芳司	
技術主査			岡寺 良		
主任技師			渡部 邦昭		
広報普及班		技術主査	齋部 麻矢	広報普及班長	
		指導主事兼事務主査	朝山 陽一郎		
		指導主事兼事務主査	園田 芳雅		
調査研究班		技術主査	杉原 敏之	調査研究班長	
		主任技師	下原 幸裕		
		主任技師	岡田 論		
文化財調査室		参事	飛野 博文	文化財調査室長	
		企画主幹	吉村 靖徳	文化財調査室長補佐	
		文化財調査班	技術主査	秦 憲二	文化財調査班長
	技術主査		小川 泰樹		
	技術主査		小澤 佳憲		
	主任技師		坂本 真一		
	主任技師		城門 義廣		
	保存管理班	技術主査	加藤 和歳	保存管理班長	
		参事補佐	池邊 元明		
		主任技師	小林 啓		

### ②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長 杉光 誠		
委 員	副館長 伊崎 俊秋	委 員	調査研究班長 杉原 敏之
委 員	学芸調査室長 小田 和利	委 員	学芸研究班長 松川 博一

## (5) 関係法規

### ○九州歴史資料館条例

(昭和 60 年 1 月 21 日福岡県条例第 4 号)

(設置)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 30 条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第 2 条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第 3 条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和 39 年福岡県条例第 5 号)第 3 条から第 6 条まで及び第 9 条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第 4 条第 1 項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第 4 条 博物館法(昭和 2 6 年法律第 2 8 5 号)第 2 0 条第 1 項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第 6 項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、1 5 人以内とする。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な

事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第 5 条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第 1 各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第 6 条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第 2 の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第 7 条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第 8 条 前 3 条の規定は、第 2 条第 2 項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第 9 条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前 2 号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第 1 0 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報に適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則(平成24年条例第33号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年条例第7号)抄

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分		金額(1回につき)
個人で観覧する場合	一 般	200円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一 般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課

程、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、中等教育学校の前期課程又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分		金額(1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,450円
	第4展示室	8,350円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,170円
	第4展示室	12,520円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額(1時間につき)
会議室	380円
研修室1	380円
研修室2	380円
研修室3	380円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2(第6条関係)

区分	金額(1枚につき)
電子式複写(白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48・2・20教育委員会規則第4号)

最終改正平成22・6・教育委員会規則第10号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等（分館にあつては指定管理者。以下「館長等」という。）が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

（開館時間）

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

（利用の申込）

第4条 資料館（分館を除く。）の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

（利用申込の取消又は変更）

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

（利用の承認）

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

（資料の複写）

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法（昭和45年法律第48号）に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めるとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

（利用制限）

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認めら

れる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者

二 その他係員の指示に従わない者  
（資料の館外貸出し）

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

（損害の賠償）

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

（寄贈又は寄託）

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出のものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

（寄贈資料の取扱い）

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

（寄託資料の取扱い）

第13条 寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によ

りこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

### ○九州歴史資料館組織規則

(昭和47.4.1教育委員会規則第2号)

最終改正：平成23.3.教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副理事	上司の特命に係る事務を処理する。
副館長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。

技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技能員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。

二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。

三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。

四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。

五 考古資料の展示に関すること。

六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。

七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。

八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。

九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。

十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。

十一 九州歴史資料館協議会に関すること。

十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。

十三 施設設備の管理に関すること。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

#### ○九州歴史資料館協議会規則

(昭和 60. 3. 30 教育委員会規則第 4 号)

最終改正 平成 24. 3. 教育委員会規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和 60 年福岡県条例第 4 号)第 4 条第 1 項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に、会長及び副会長各 1 名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は 1 年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第 3 条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第 4 条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第 5 条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改

正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成 20 年教育委員会規則第 5 号抄)

(施行期日)

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

#### ○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成 22. 6. 30 福岡県規則第 30 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和 60 年福岡県条例第 4 号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第 2 条 使用料(条例第 5 条第 1 項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第 3 条 条例第 5 条第 2 項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第 4 条 手数料(条例第 6 条の手数料をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第 5 条 条例第 7 条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条

例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合

当該観覧に係る観覧料の全額

三 児童福祉施設(児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。)に入所又は通所している少年(同法第4条第3号に規定する少年をいう。

以下同じ。)が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児(同法第4条第2号に規定する幼児をいう。)又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

六 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

七 療育手帳制度要綱(昭和48年9月27日厚生省発児第156号)に規定する療育手帳(以下単に「療育手帳」という。)の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成8年福岡県規則第55号)第9条第5号に規定する身体障害者、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令(昭和25年政令第155号)第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者(以下「障害者」と総称する。)の介護人が当該障害者とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室(以下「展示室等」という。)の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額

十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額

十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

(減免の申請)

第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書(様式第1号)を知事に提出しなければならない。

2 前条第五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者(前条第九号に該当する場合にあっては、障害者)は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書(様式第2号)を知事に提出しなければならない。

4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書(様式第3号)を知事に提出しなければならない。

5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

### 3 諸 統 計

#### (1) 入館者状況

##### ア 平成 25 年度入館者状況

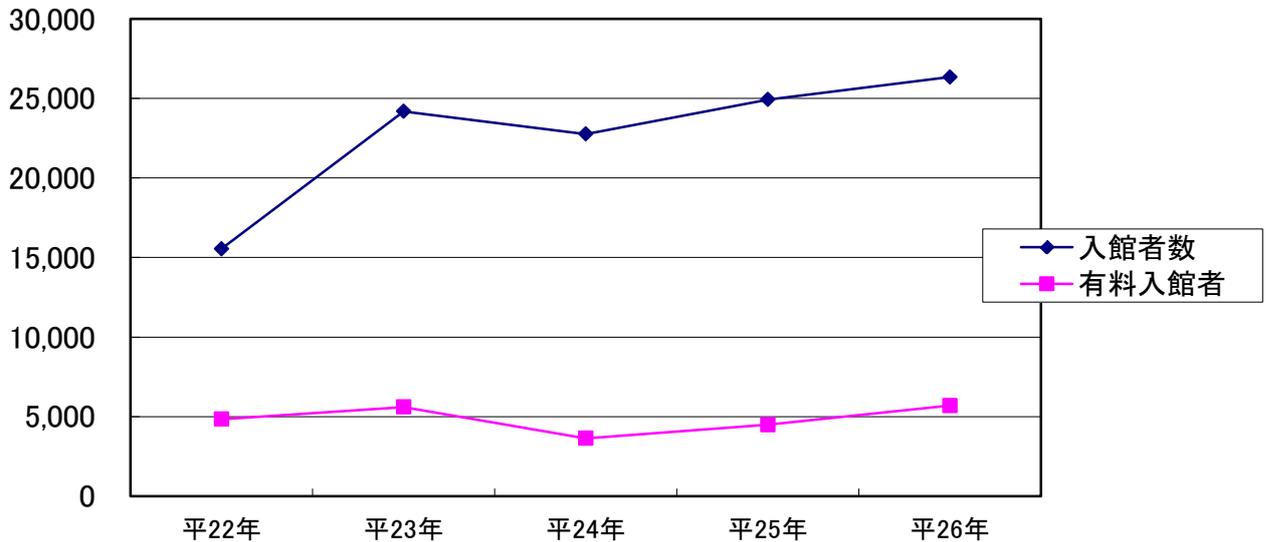
期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
平成 25 年 4 月 1 日から 平成 26 年 3 月 31 日まで	309 日	26,343 人	85 人

##### イ 過去 5 年間の入館者状況

年度 区分	開館 日数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳				1日平均 入館者数
				大 人	大学生	高校生	中学生以下	
平 21	301	13,623	0	10,688	306	92	2,537	45
年度 区分	開館 日数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	大 人	合 計 入 館 者 内 訳 高大生		中学生以下	1日平均 入館者数
平 22	106	15,544	4,835	13,397	709		1,438	147
平 23	308	24,186	5,600	20,341	751		3,094	79
平 24	306	22,767	3,596	19,237	460		3,070	74
平 25	305	24,926	4,485	21,168	507		3,251	82
平 26	309	26,343	5,686	22,450	741		3,152	85

##### ウ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人



#### (2) 収蔵資料・図書

<寄贈等資料>

考古資料 287,114 点  
歴史資料 111,481 点

<図 書>

購 入 4,396 冊  
寄 贈 157,500 冊

## 4 日 誌 抄

月 日	内 容
平成 26 年 4 月 8 日 (火)	第 20 回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」 (～7月 21 日 (月))
	イベント「墨象パフォーマンス・ワークショップ」
5 月 14 日 (水)・21 日 (水)	文化財安全パトロール
6 月 17 日 (火)	特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり 2～糟屋地区編～」(～8月 6 日 (水))
	古高取内ヶ磯窯開窯 400 年記念展示「内ヶ磯窯跡出土品からみた高取焼」 (～8月 6 日 (水))
30 日 (月)	大宰府史跡整備指導委員会
7 月 6 日 (日)	きゅうれき七夕イベント (弓道演武・ジャズ演奏)
23 日 (水)	第 21 回企画展「発掘速報展 2014」(～10月 5 日 (日))
25 日 (金)	九州歴史資料館協議会
26 日 (火)	ナイトミュージアム in きゅうれき 夏
27 日 (火)	こども考古学体験教室
8 月 16 日 (土)	第 22 回企画展「徹底解説!! 水城のすべて」(～9月 28 日 (日))
	第 23 回企画展「黒田官兵衛と城」(～9月 28 日 (日))
22 日 (火)	夏休み なるほど!! こども歴史教室 「ふくおか官兵衛くんと学ぶ めざせ!! お城博士」
9 月 6 日 (土)	企画展関連イベント「福岡黒田武将隊参上!!」 ボランティアイベント「はた織り体験」
7 日 (日)	企画展関連講演会「官兵衛の築城を探るー福岡城を中心にー」
23 日 (火)	企画展関連講演会「水城の築造技術と構造ー現代土木技術者の視点からー」
10 月 3 日 (金)・4 日 (土)	「クテ打ち組紐技法講座応用編」
10 日 (金)	特別展示「福岡の神仏の世界ー九州北部に華開いた信仰と造形ー」 (～11月 30 日 (日))
13 日 (月)	特別展開催記念茶会
19 日 (日)	特別展開催記念アクロス福岡ミュージアムコンサート
21 日 (火)・22 日 (水)	大宰府史跡調査研究指導委員会
11 月 1 日 (土)	特別展記念講演会「福岡県の仏像」
8 日 (土)	入館者 10 万人達成記念式
9 日 (日)	ボランティアイベント「九歴『ぎっちょう』親子大会」
12 月 9 日 (火)	第 24 回企画展「政治家 野田卯太郎から見る日本の近代」(～2月 1 日 (日))
	第 25 回企画展「海の王都・一支国 ー原の辻遺跡と壱岐の至宝ー」(～3月 8 日)
1 月 17 日 (土)	企画展関連講演会「「地方の時代」が生んだ政党政治家 ー野田卯太郎の活動と関係文書の意義ー」
8 日 (日)	イベント「和ろうそくを作ろう」
10 日 (火)	特集展示「大宰府の役所ー大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区成果展」(～4月 5 日 (日))
27 日 (金)	ナイトミュージアム in きゅうれき 冬
3 月 1 日 (日)	ボランティアイベント「つくってみようよ! My おひなさま・組紐ストラップ」
3 月 10 日 (火)	第 26 回企画展「古墳から火葬墓へー北部九州における古墳の終焉ー」 (～平成 27 年 5 月 10 日 (日))

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2117104
登録年度 2 7	登録番号 0001

### 九州歴史資料館年報（平成 26 年度）

発 行 日 平成 27 年 7 月 30 日

編 集 ・ 発 行 九州歴史資料館  
〒 818 - 0106

福岡県小郡市三沢 5208 - 3

T E L 0942-75-9575

F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN  
OF  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM  
2014

CONTENTS

Preface	
1 2014 Report of Kyushu Historical Museum	1
(1) Survey and Research	1
(2) Exhibition	18
(3) Item Available	26
(4) Study Support/Museum,school Cooperation	32
(5) Volunteer	36
(6) Dissemination/ Utilization	39
(7) Public Relations Activities	51
(8) Practice and Training Opportunities	53
(9) Published matter	54
(10) Interchange	55
(11) Conference and Meeting Facilities	56
2 Organization of Kyushu Historical Museum	57
(1) History	57
(2) Building and Grounds	58
(3) Budget	58
(4) Organization Chart and Staff	59
(5) Rules and Regulations	60
3 Statistics of Kyushu Historical Museum	66
(1) Museum Visitors	66
(2) Total Materials and Books	66
4 Outline of 2014 Activities	67